

令和7年度 立川市旧清掃工場解体工事 進捗状況報告会

令和8年1月23日(金) 17～20時
令和8年1月25日(日) 10～15時
旧若葉小学校 1階 プレイルーム

報告の内容

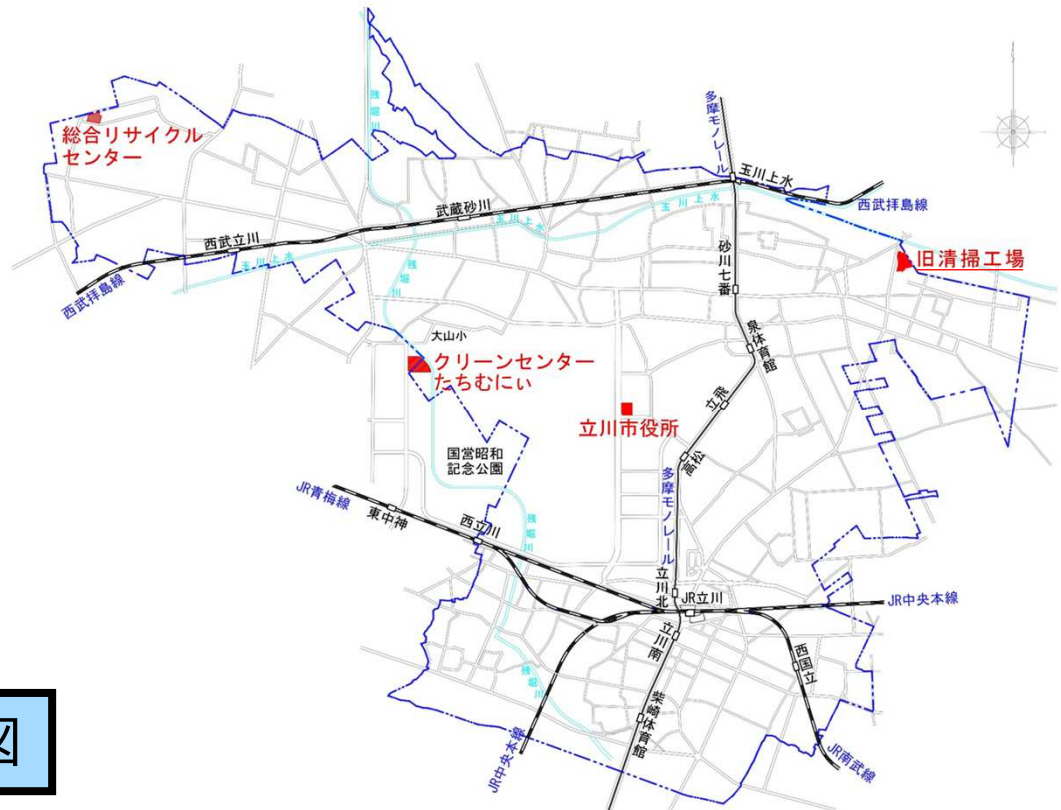
- | | |
|--------------|------------|
| 1 解体工事の概要 | 6 煙突解体 |
| 2 案内図・配置図 | 7 山留工事 |
| 3 工程表 | 8 地下躯体解体 |
| 4 工場棟上屋解体 | 9 汚染土壌掘削除去 |
| 5 全覆い仮設テント解体 | 10 環境測定結果 |

1 解体工事の概要

1. 工事名称	立川市旧清掃工場解体工事
2. 工事場所	立川市若葉町四丁目11番地の19
3. 施設面積	(1) 敷地面積： 9,554.44 m ² (2) 建築面積： 4,968.67 m ² (3) 床面積：10,429.37 m ²
4. 契約期間	令和5年11月7日から 令和9年11月5日まで
5. 契約金額	4,884,000,000円（消費税込額）
6. 発注者	立 川 市
7. 施 工 者	村本建設株式会社 西東京営業所
8. 監 理 者	株式会社建設技術研究所 東京本社
9. 解体施設	(1) 工場棟・鉄骨鉄筋コンクリート造 ・鉄筋コンクリート造他 ・地上4階、地下3階 ・床面積：9,366.27 m ²
	(2) 付属棟他・鉄筋コンクリート造 ・地上2階 ・床面積：1,063.10 m ²
	(3) 煙 突・外筒：鉄筋コンクリート造 ・内筒：鋼板製3本 ・高さ：100m
10. 処理能力	(1) 1・2号炉： 90t/日×2基 (2) 3 号 炉： 100t/日×1基 (3) 合 計： 280t/日
11. 仮設工法	全覆い仮設テント方式（工場棟）

2 案内図・配置図

案内図



凡 例





















解体撤去範囲



配置図

- ・解体工事着手前の敷地内の配置図です。
- ・犬猫慰霊碑は、立川通り沿いのバス停の脇に移設済みで、引き続き参拝可能です。
- ・遊歩道は、工事完了後も利用可能となるよう調整中です。

3 工程表

種 別	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
家屋調査				
土壌汚染調査				
アスベスト 撤去工事				
全覆い仮設 テント設置				
環 境 調 査				
煙突除染工事 煙突解体工事	 			
焼却施設除染 焼却施設解体				
建屋解体 (付属棟・工場棟) (先行解体)				
仮囲(東西) 防音壁架設				
山 留 工 事				
地 下 部 解 体 工 事				
土 壌 汚 染 対 策 工 事			 	
外構解体工事				
整 地 場 内 整 備				

(令和8年1月下旬)

4 工場棟上屋解体

(1) 工場棟上屋解体の概要

工場棟の上屋解体は、全覆い仮設テント内での作業としました。施工概要については下のフローに示すとおりで、令和8年1月中旬の時点で、地上部の躯体解体は概ね終了しており、今後は全覆い仮設テントの解体へと移行します。

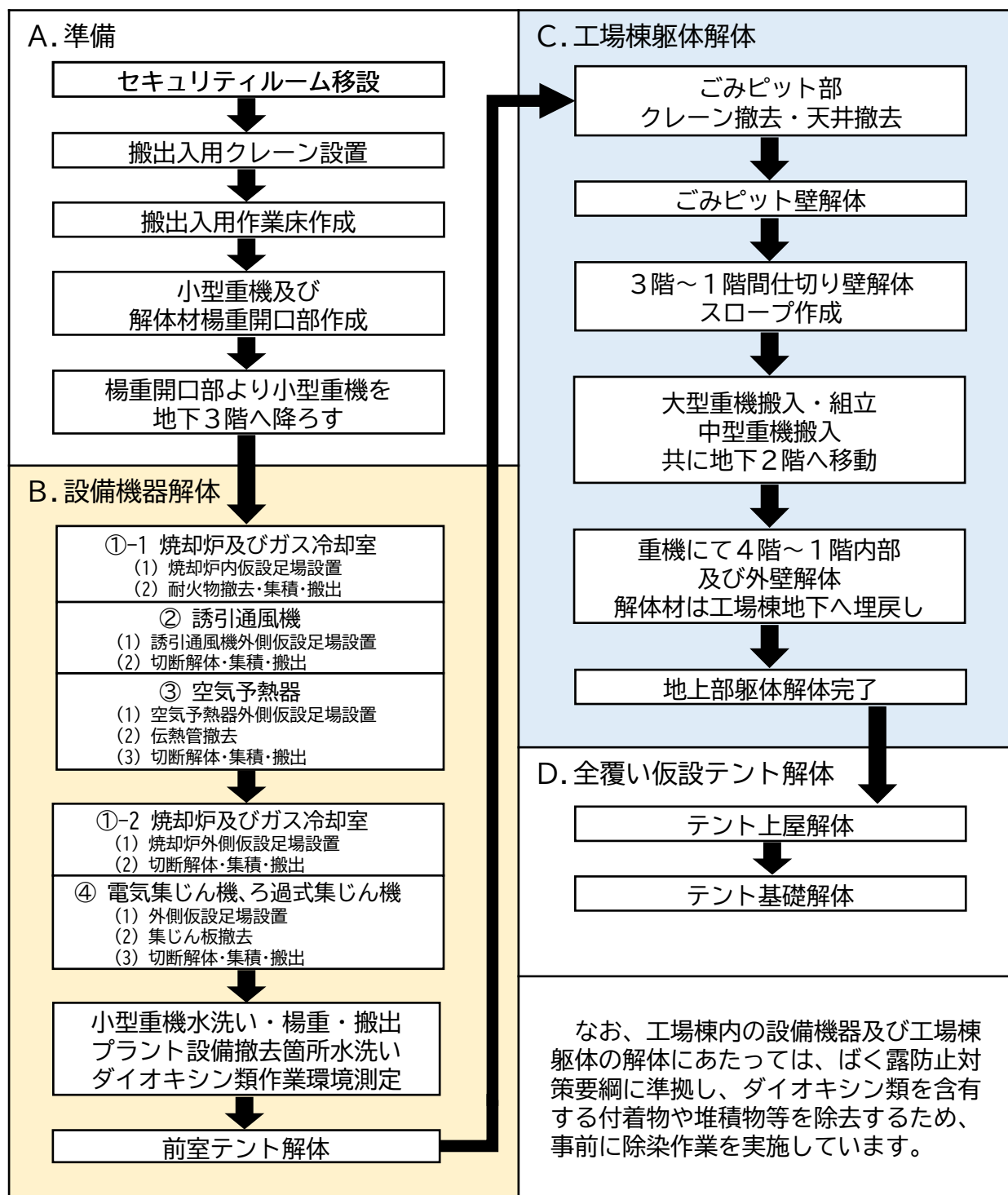


図4-1 工場棟上屋解体施工フロー

(2) 設備機器解体

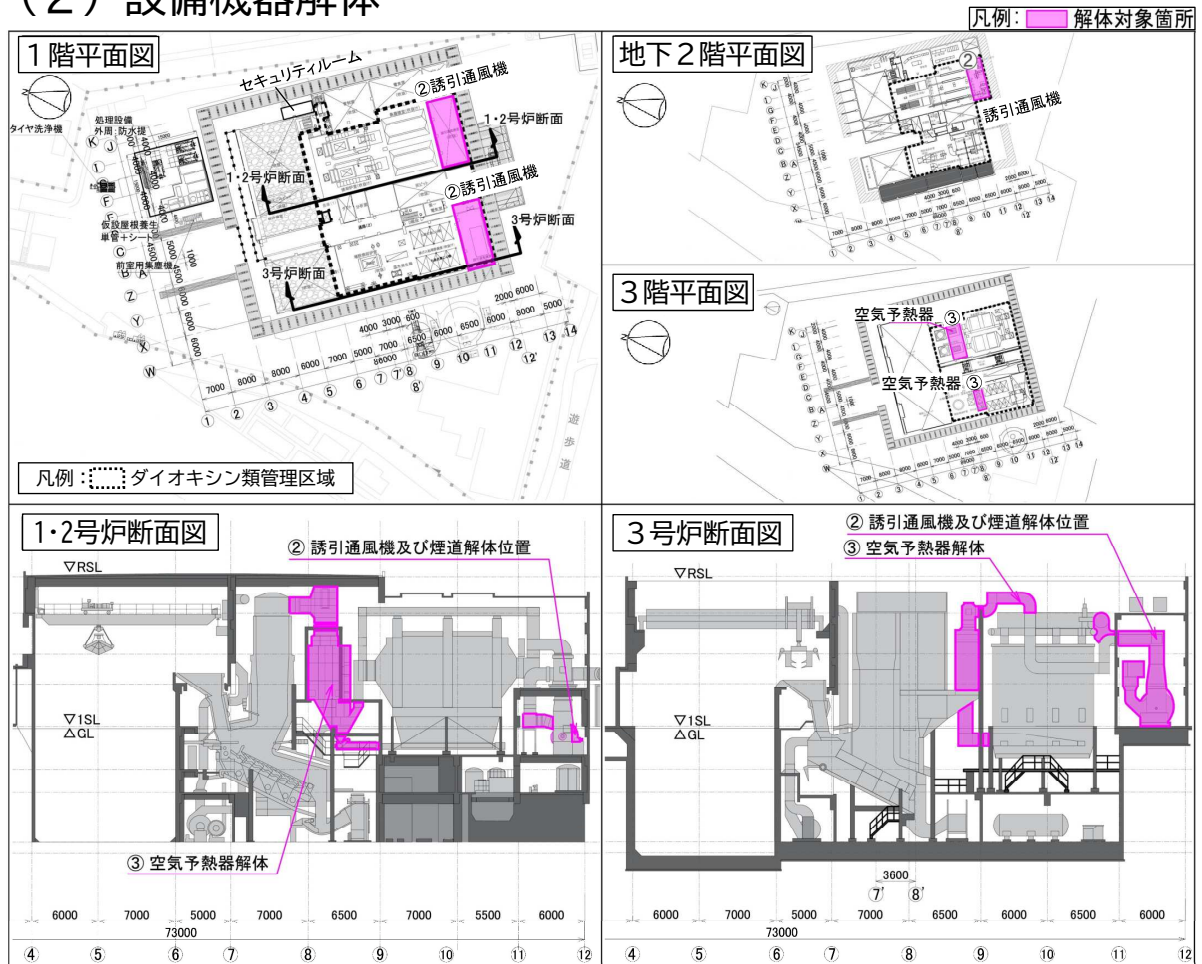


図4-2-1 誘引通風機・空気予熱器等解体図

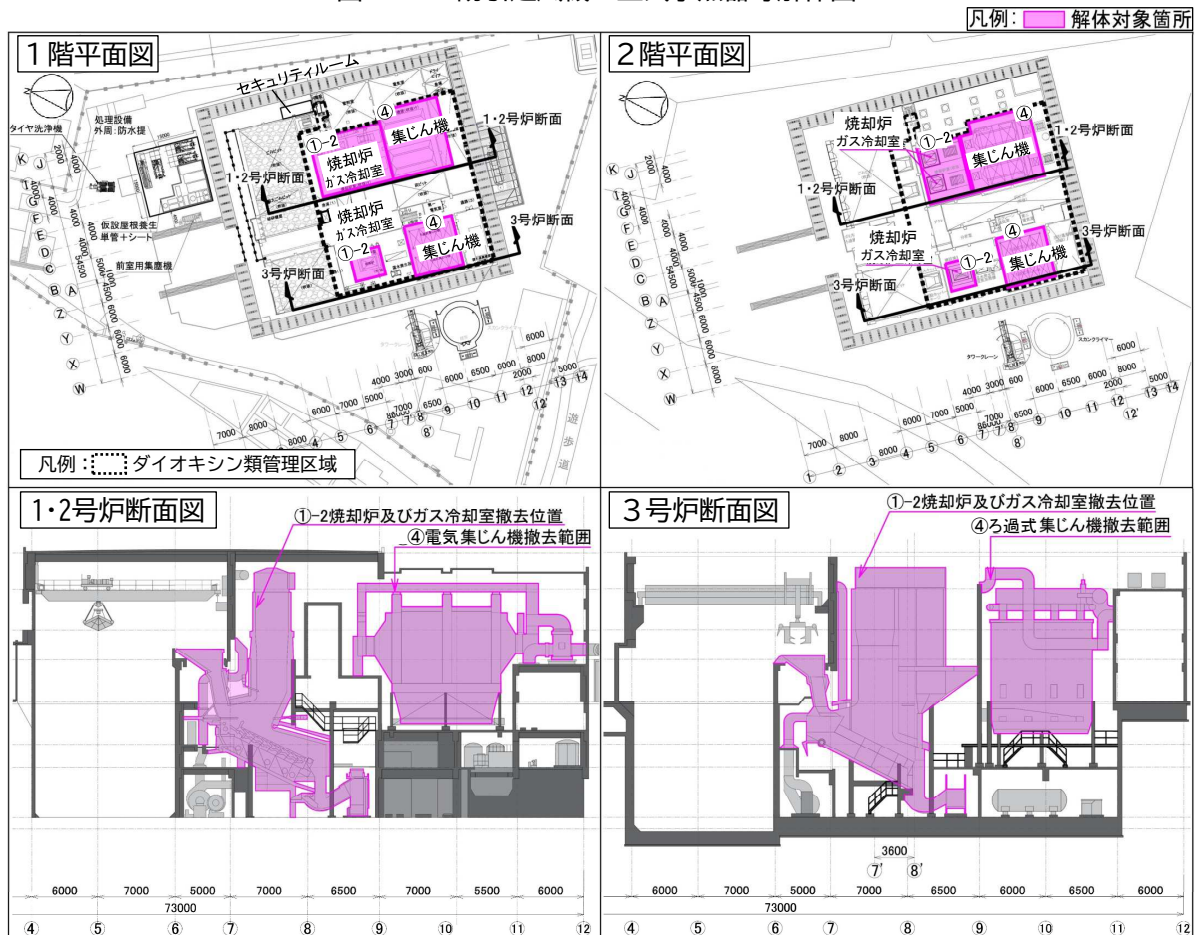


図4-2-2 焼却炉・ガス冷却室・集じん機解体図

(3) 工場棟上屋解体 (ごみピットクレーン・天井)

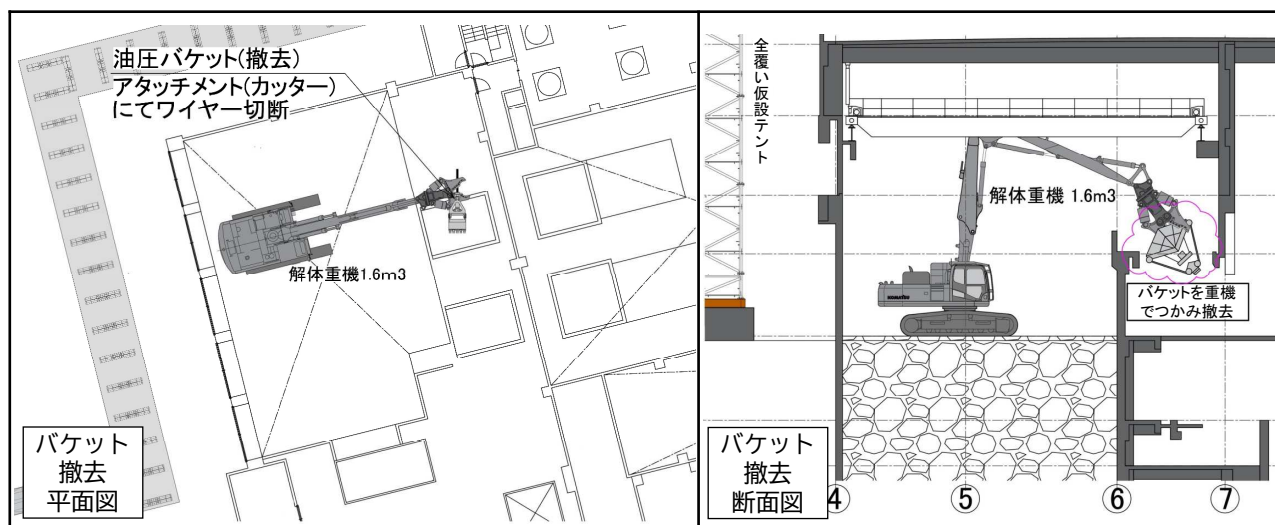


図4-3-1 ごみクレーンバケット撤去図

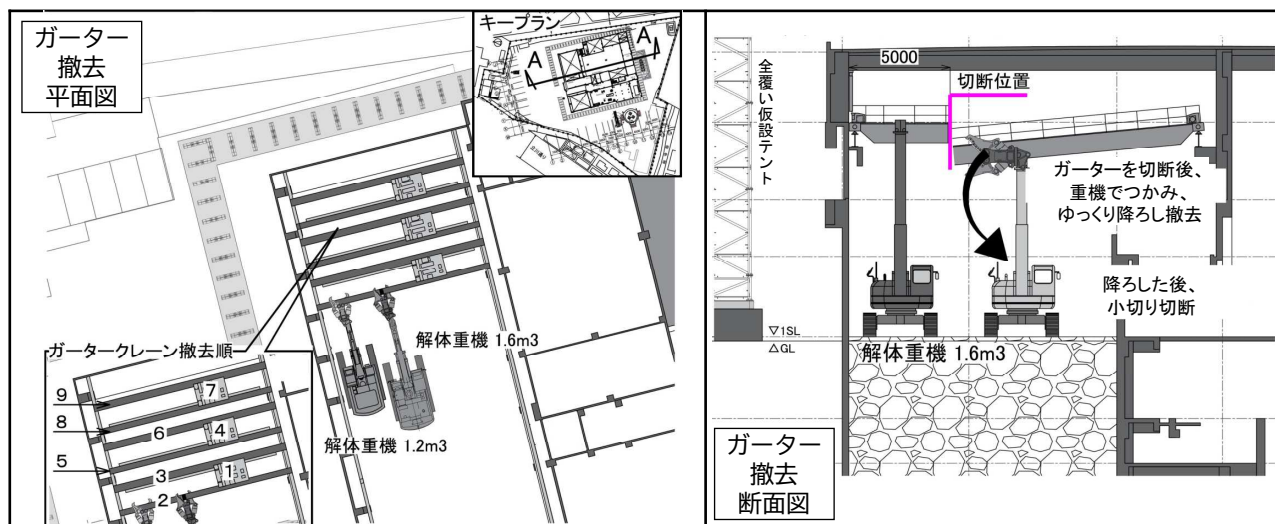


図4-3-2 ごみクレーンガーター撤去図

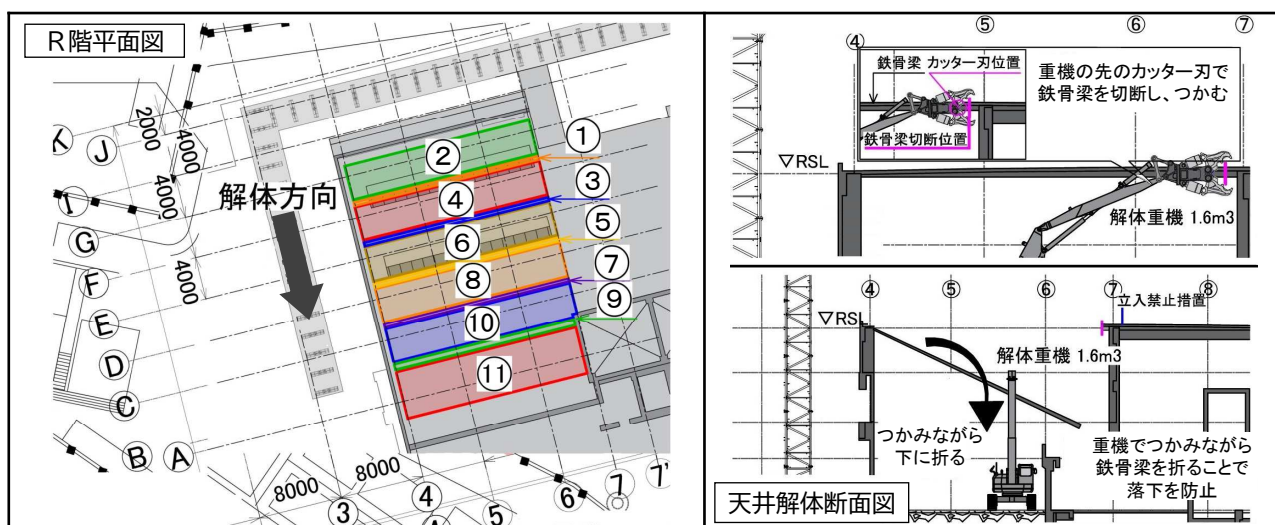
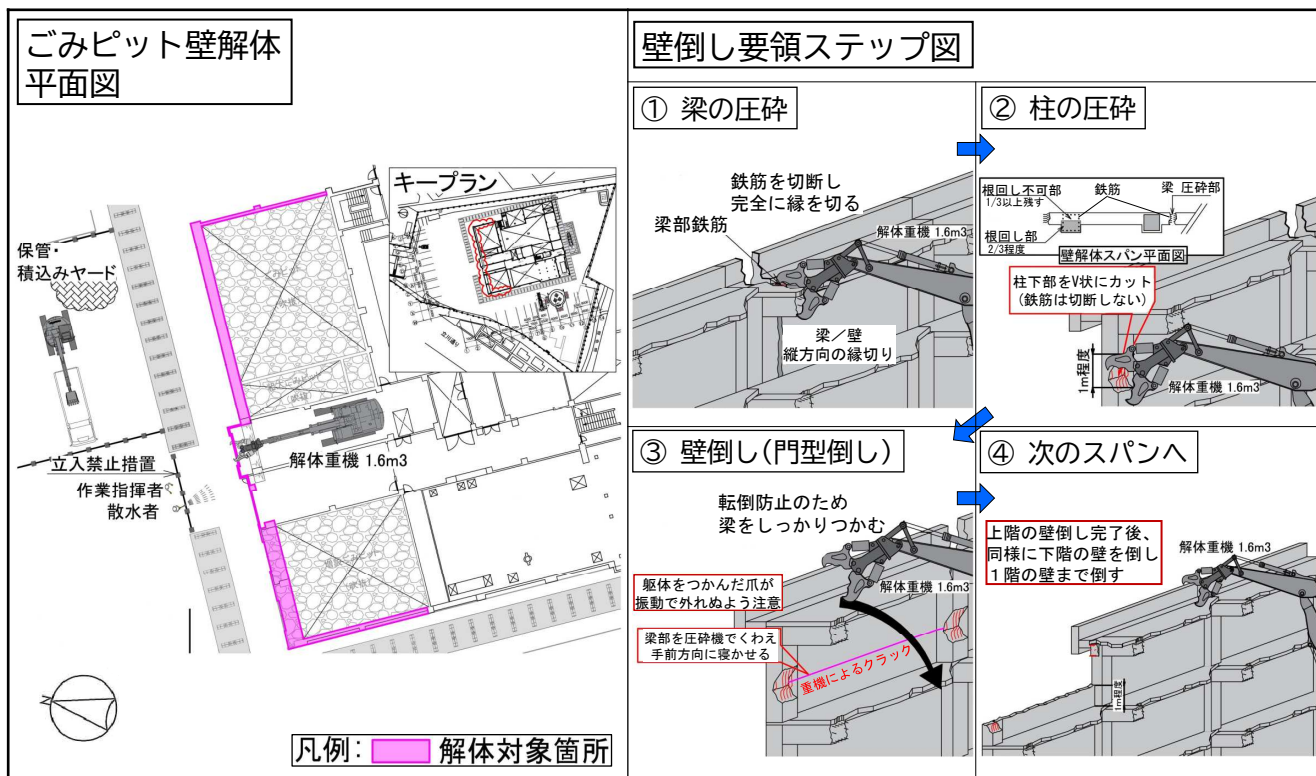


図4-3-3 ごみピット天井解体図

(4) 工場棟上屋解体 (ごみピット壁・間仕切り壁)



(5) 工場棟上屋解体 (4階～1階内部及び外壁解体)

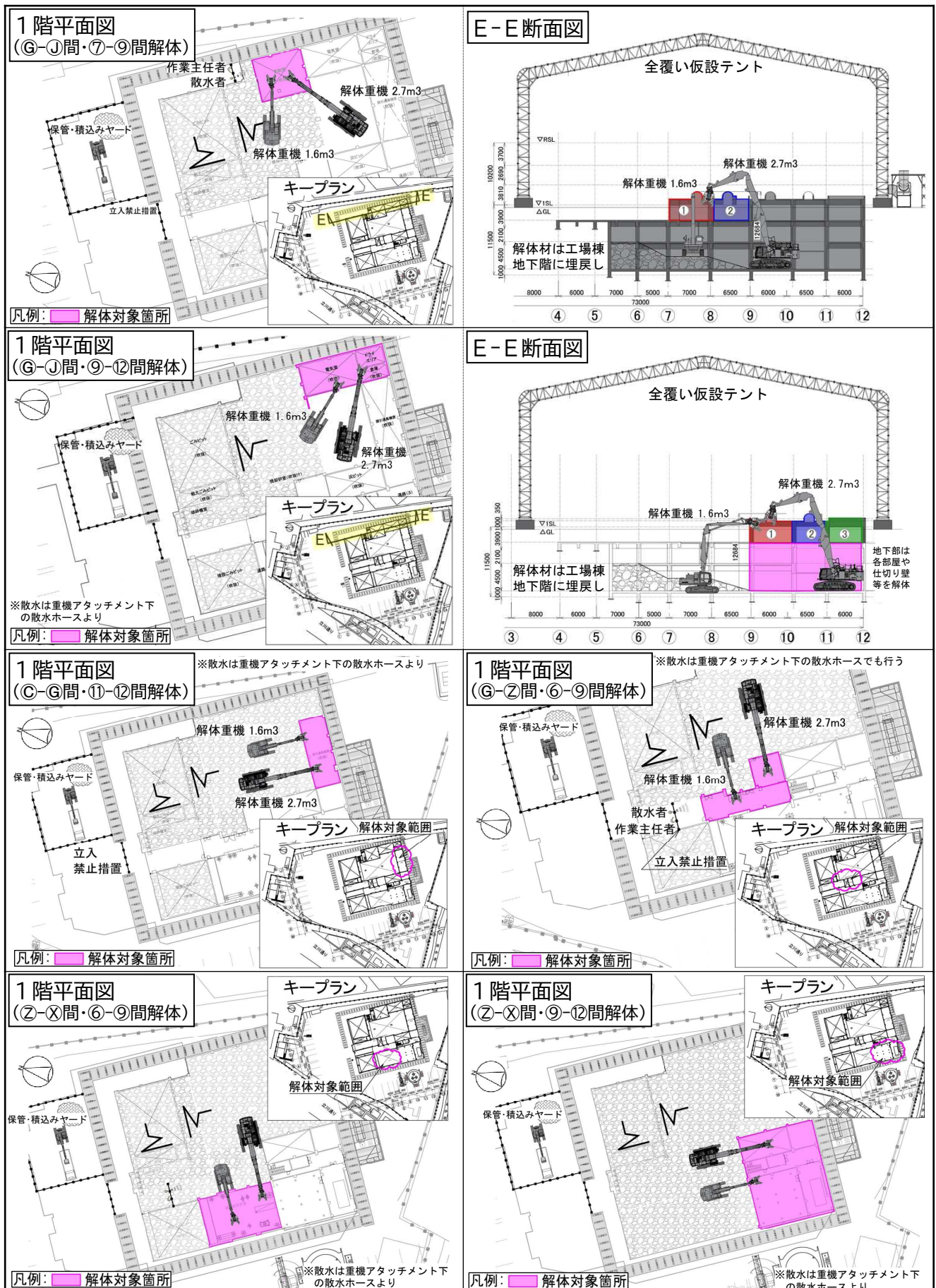


図4-5 4階～1階内部及び外壁解体図

5 全覆い仮設テント解体

(1) 全覆い仮設テントの解体

工場棟の解体にあたっては、全覆い仮設テント方式を採用し、可能な限り粉じんの飛散防止や騒音を抑える仮設工法としました。工場棟の上屋解体後、全覆い仮設テントの解体を実施します。

全覆い仮設テントは、設置した時と逆の手順で解体を進めます。まずはテントの膜材（シート）内側の水洗い清掃を行い、内部にある防音パネルの撤去、膜材の撤去、500tクローラクレーン等を使用し屋根と柱の撤去を行い、最後に基礎コンクリート解体を行います。

なお、全覆い仮設テント北側に設置していた重機出入口用の前室テントは、全覆い仮設テント内北側に重機用スペースが確保されたため、令和7年11月に解体済みです。引き続き、周辺環境への影響に十分配慮しながら施工します。

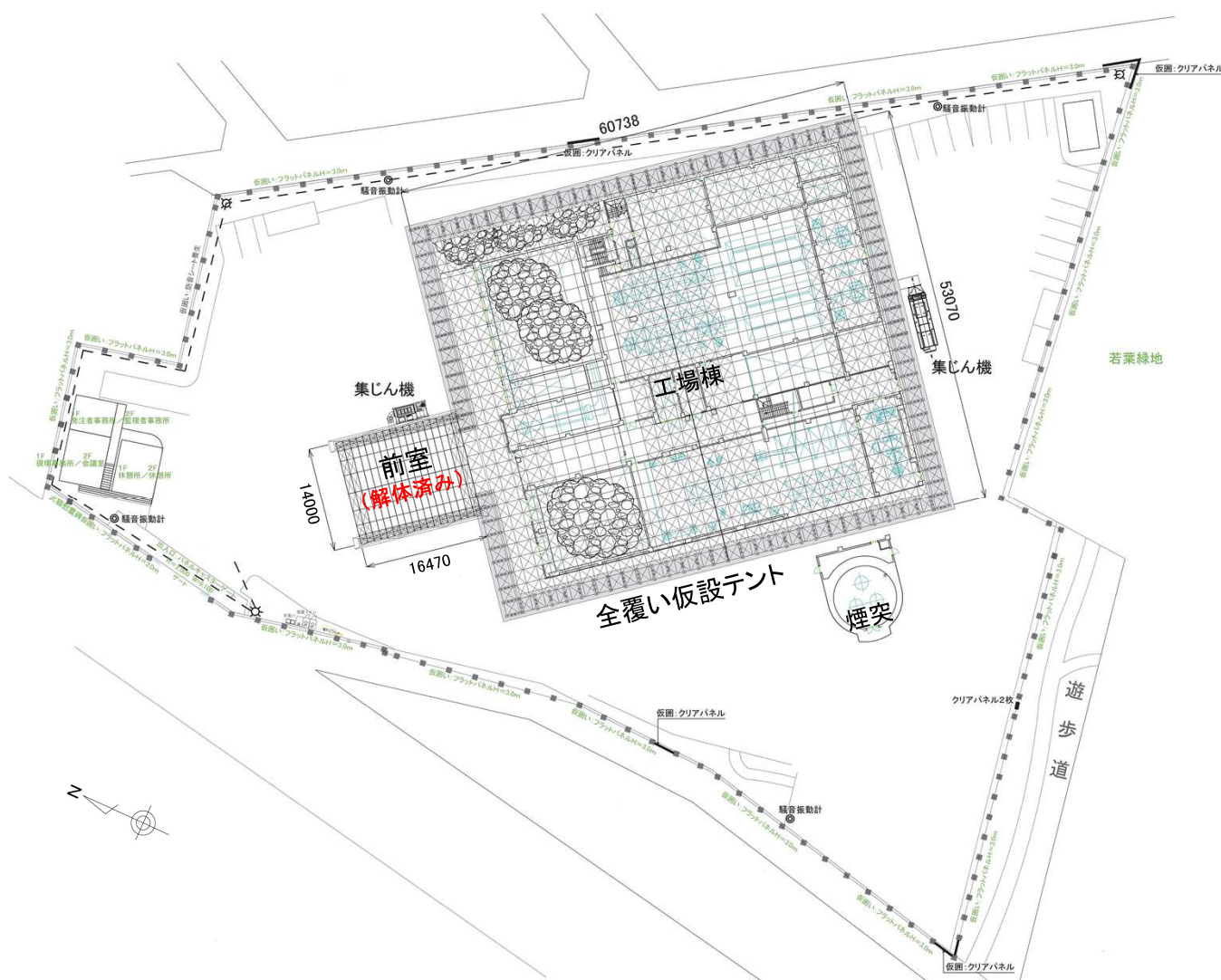
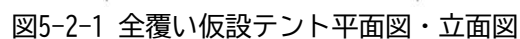


図5-1 全覆い仮設テント設置平面図

① 全覆い仮設テント



前室テント（解体済み）

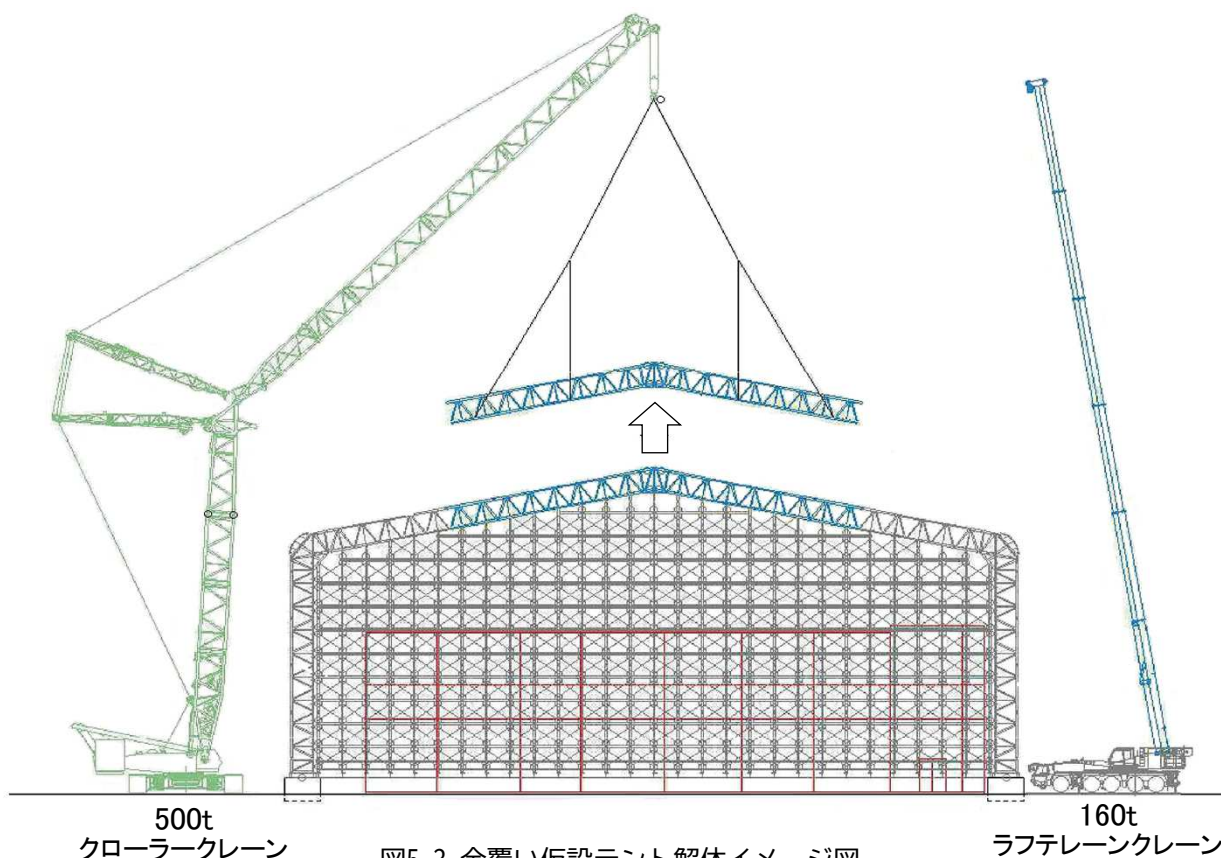
The drawings show the front room tent in three views: side elevation (軸組図(1)), side elevation (軸組図(2)), plan view (平面図), and roof structure (屋根状図). The side elevations show a gabled roof with a total width of 14,000 mm and a height of 10,900 mm. The plan view shows a rectangular area with a width of 14,000 mm and a length of 12,800 mm. The roof structure shows a grid of trusses with a total width of 14,000 mm and a height of 10,900 mm. A text box in the center states: 前室テントは、工場棟の上屋解体が進み、全覆い仮設テント内の北側に重機の出入用スペースが確保されたため、解体済みです。 (The front room tent has been dismantled because the dismantling of the upper roof of the factory building has progressed, and a space for heavy machinery entry and exit has been secured on the north side of the temporary tent covering the entire area.)

前室テントは、工場棟の上屋解体が進み、全覆い仮設テント内の北側に重機の出入用スペースが確保されたため、解体済みです。

図5-2-2 前室テント平面図・立面図

図5-2-2 前室テント平面図・立面図

(3) 全覆い仮設テント解体計画



(4) 全覆い仮設テント解体時のクレーン配置

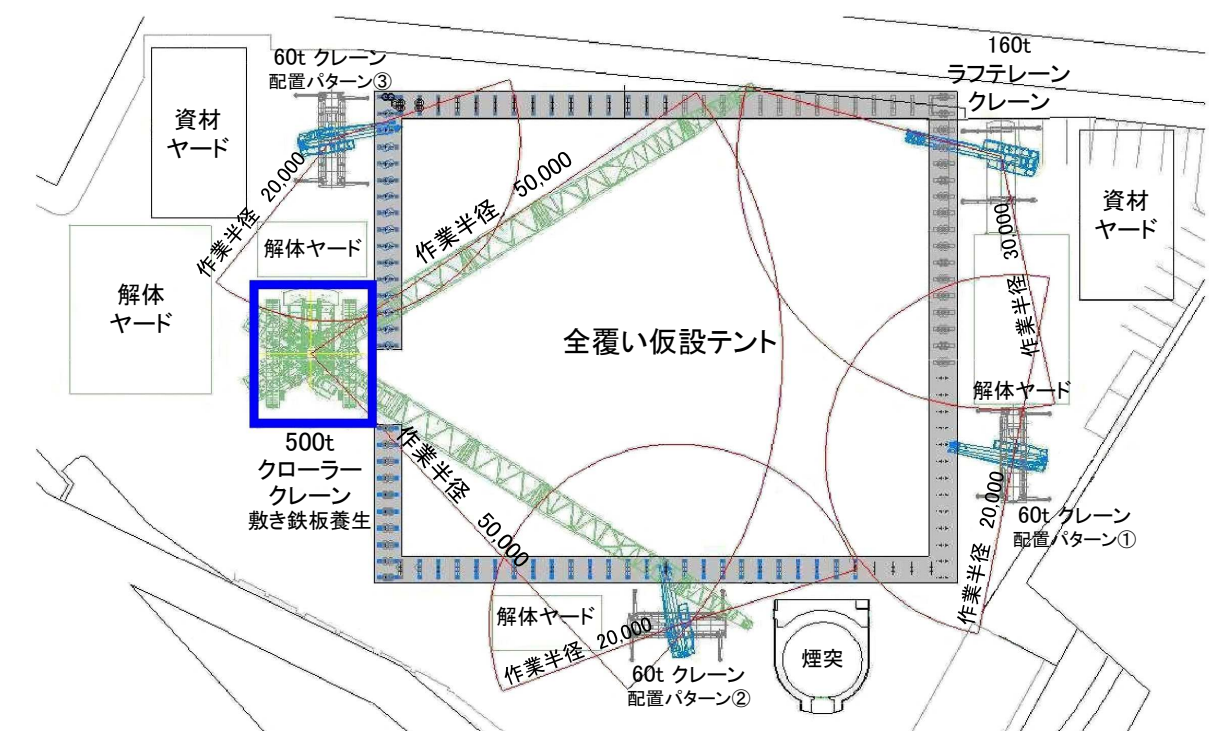
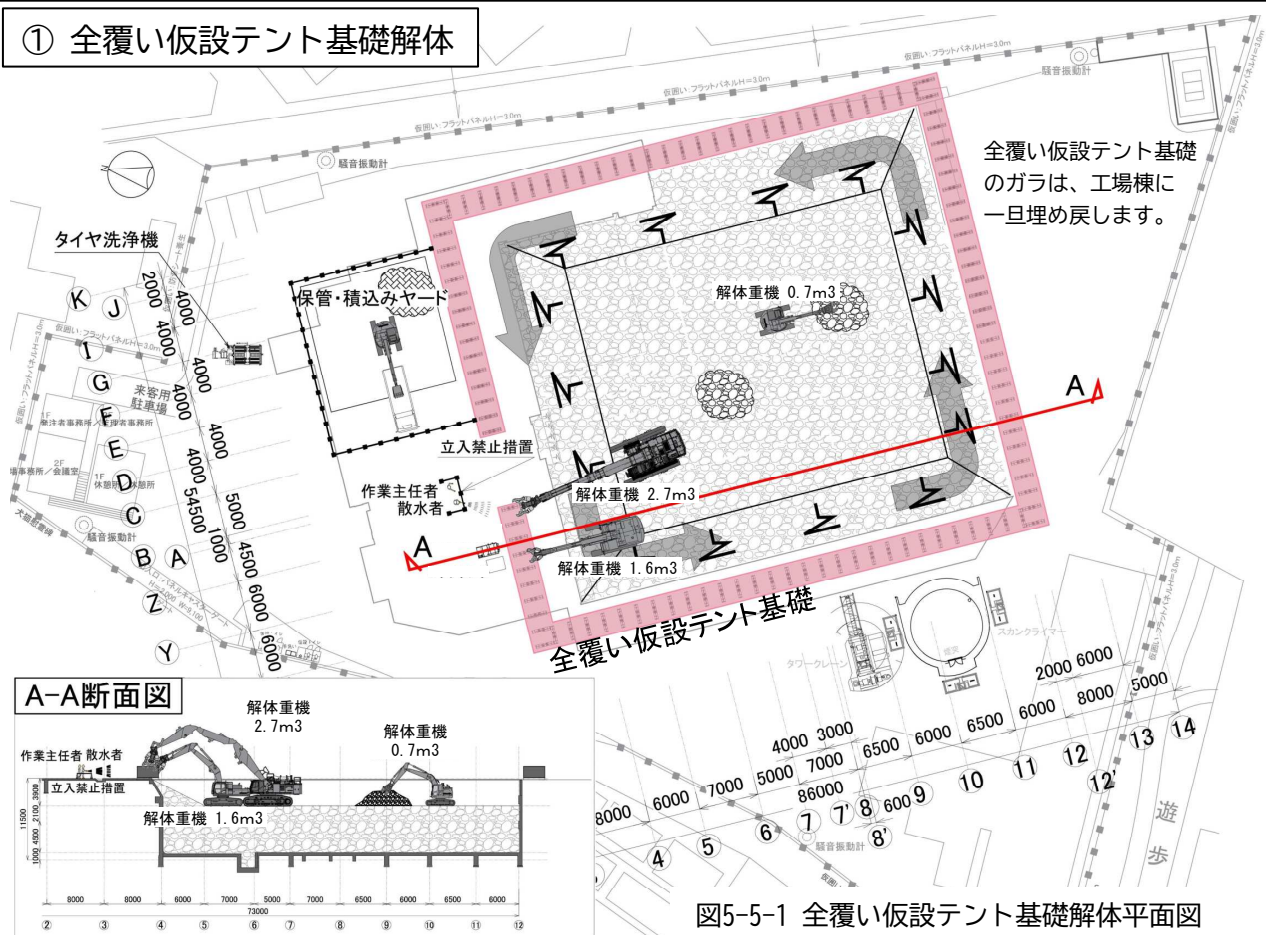


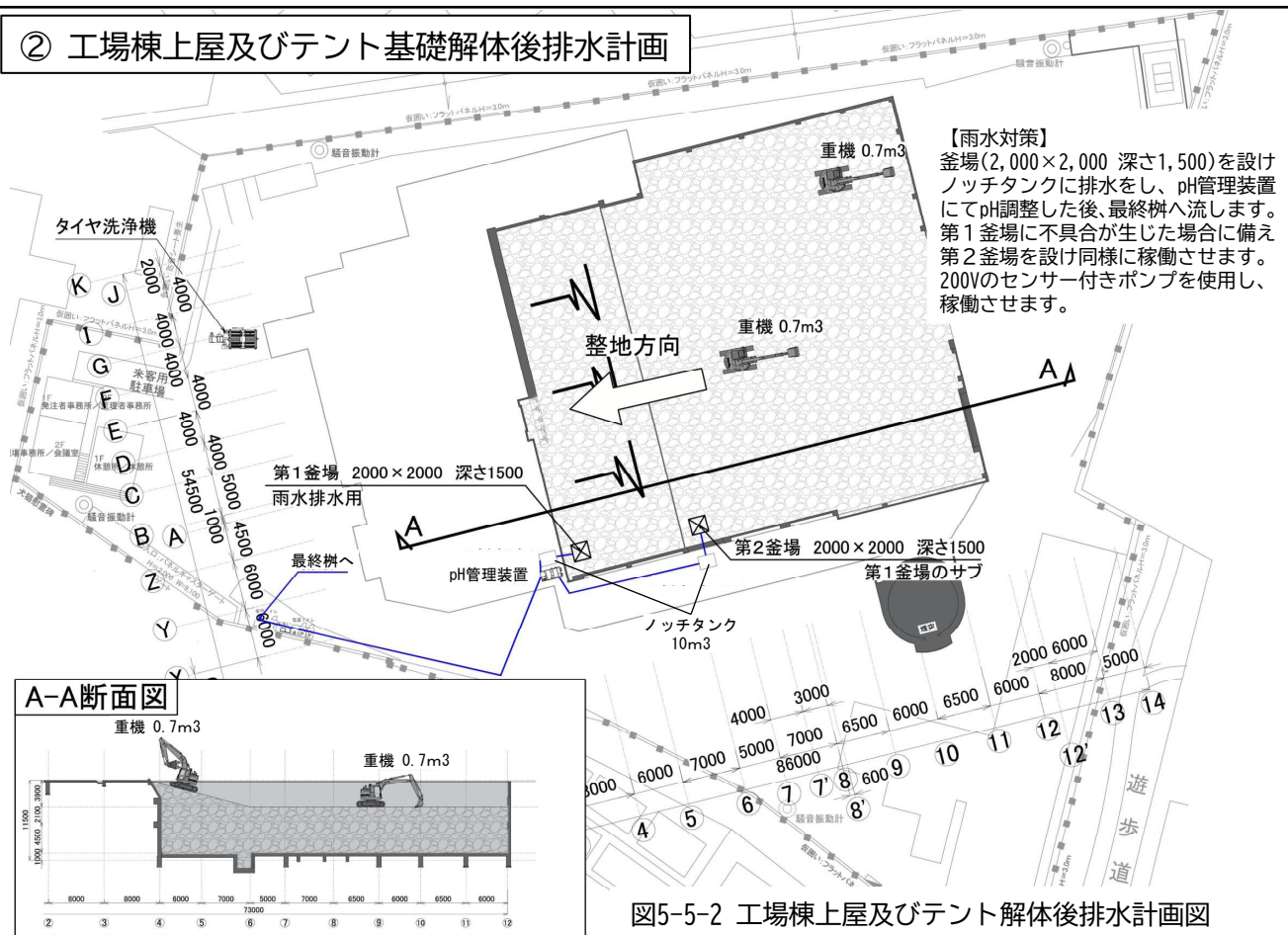
図5-4 全覆い仮設テント解体時のクレーン配置計画図

(5) 全覆い仮設テント基礎解体

① 全覆い仮設テント基礎解体



② 工場棟上屋及びテント基礎解体後排水計画

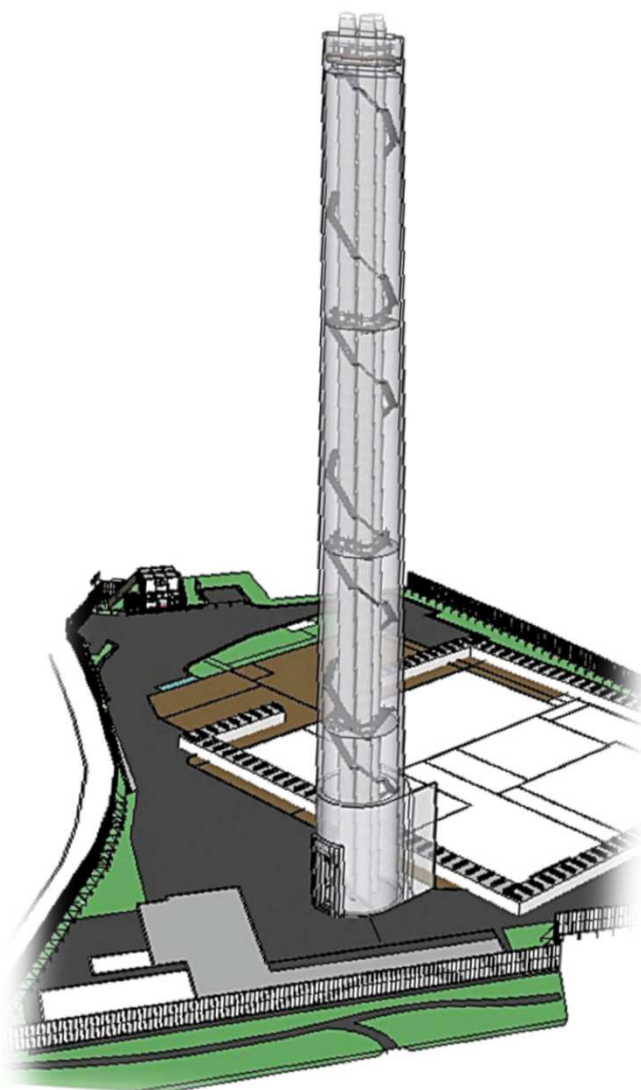


6 煙突解体

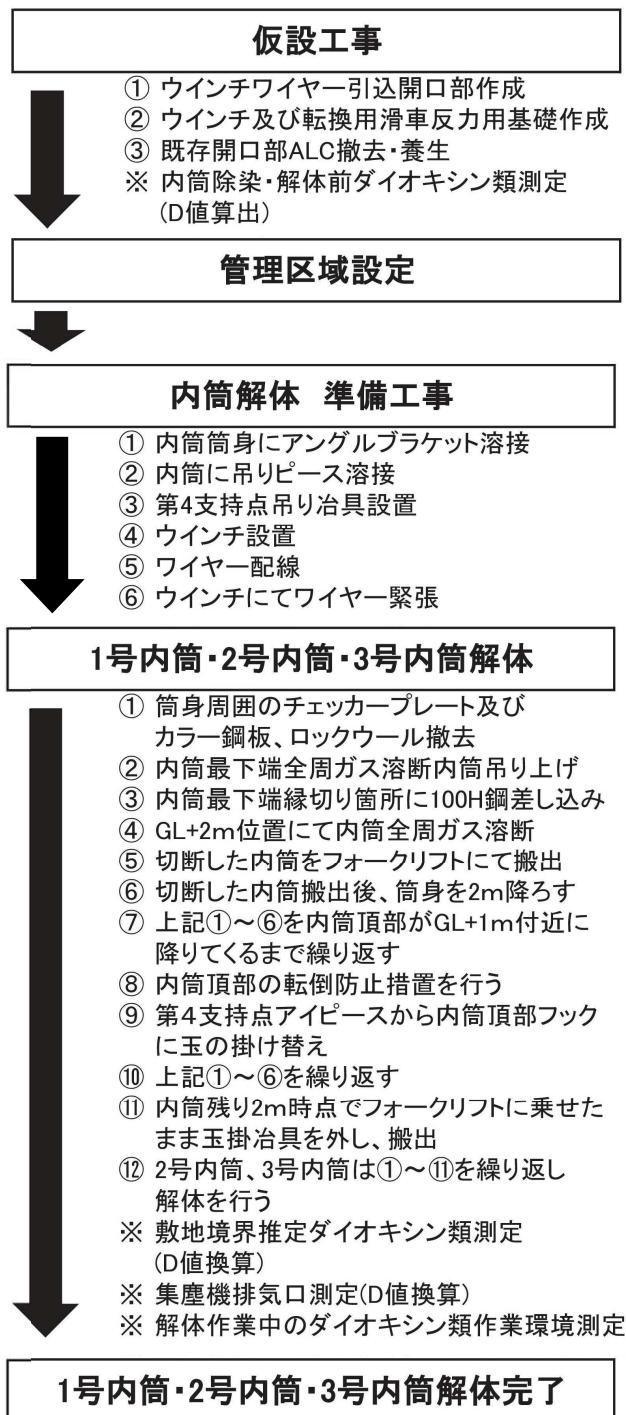
(1) 内筒（解体済み）

① 内筒の構造及び規模

- ・高　　さ：100m×3本
- ・筒　身　径：φ1.7m×2本（頂部・底部共）
φ1.8m×1本（頂部・底部共）
- ・重　　量：約54.7t（φ1.8m筒・付属品含）
- ・保　温　材：ロックウールブランケット
厚さ75mm、カラー鋼板0.4mm
- ・昇降設備：折曲階段



② 内筒解体フロー

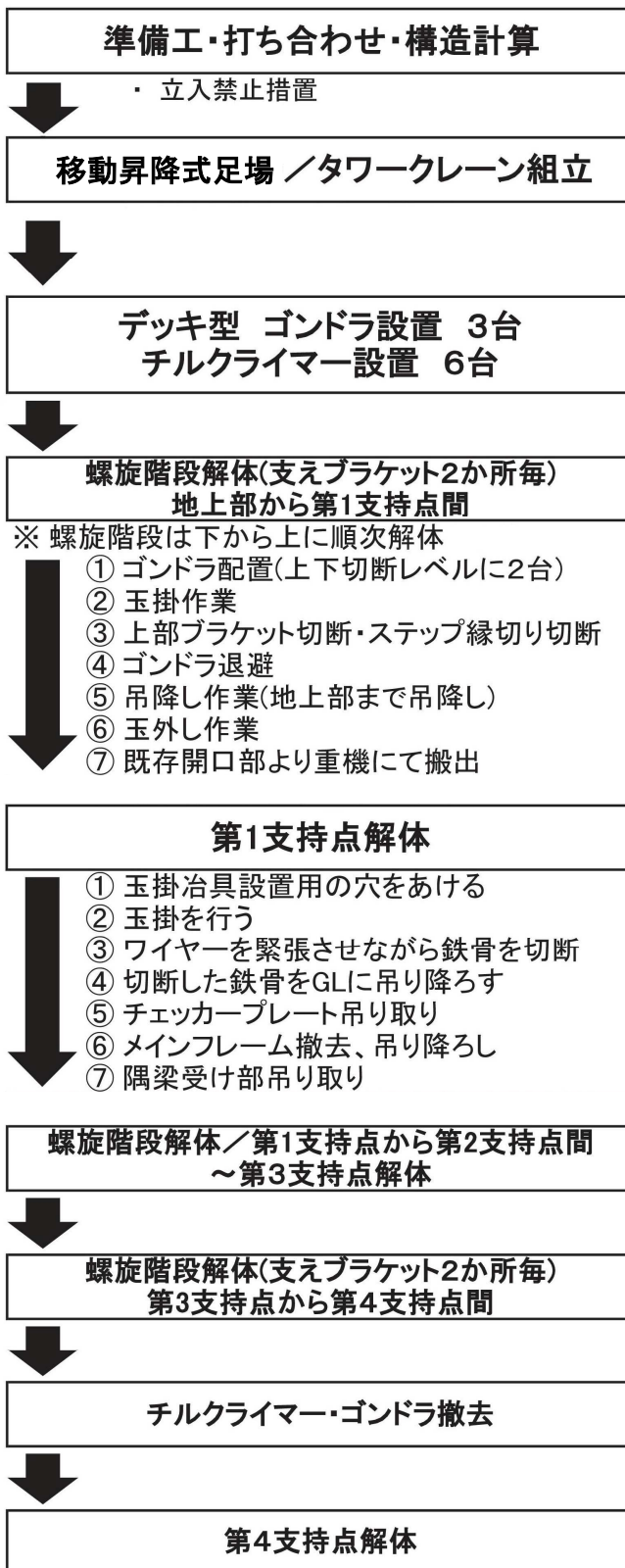
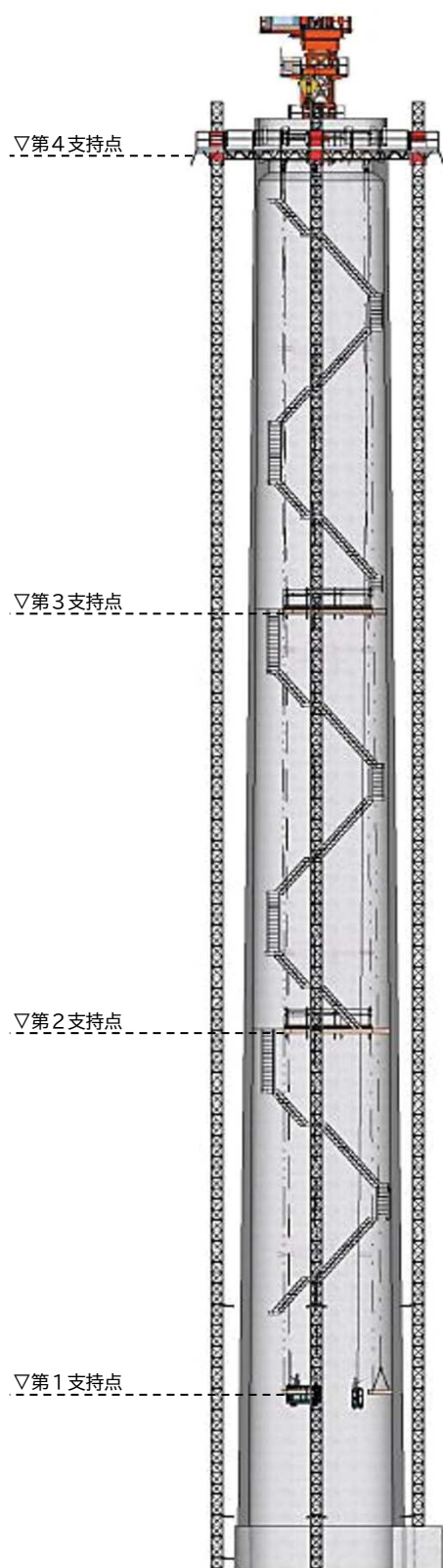


※：廃棄物処理施設解体作業マニュアル及び
廃棄物焼却施設関連作業における
ダイオキシン類ばく露防止対策要綱による

なお、煙突内筒の解体にあたっては、ばく露防止対策要綱に準拠し、ダイオキシン類を含有する付着物や堆積物等を除去するため、事前に除染作業を実施しています。

(2) 移動昇降式足場・タワークレーン（設置済み、使用中） 螺旋階段・各支持点（解体済み）

① 組立・解体等フロー

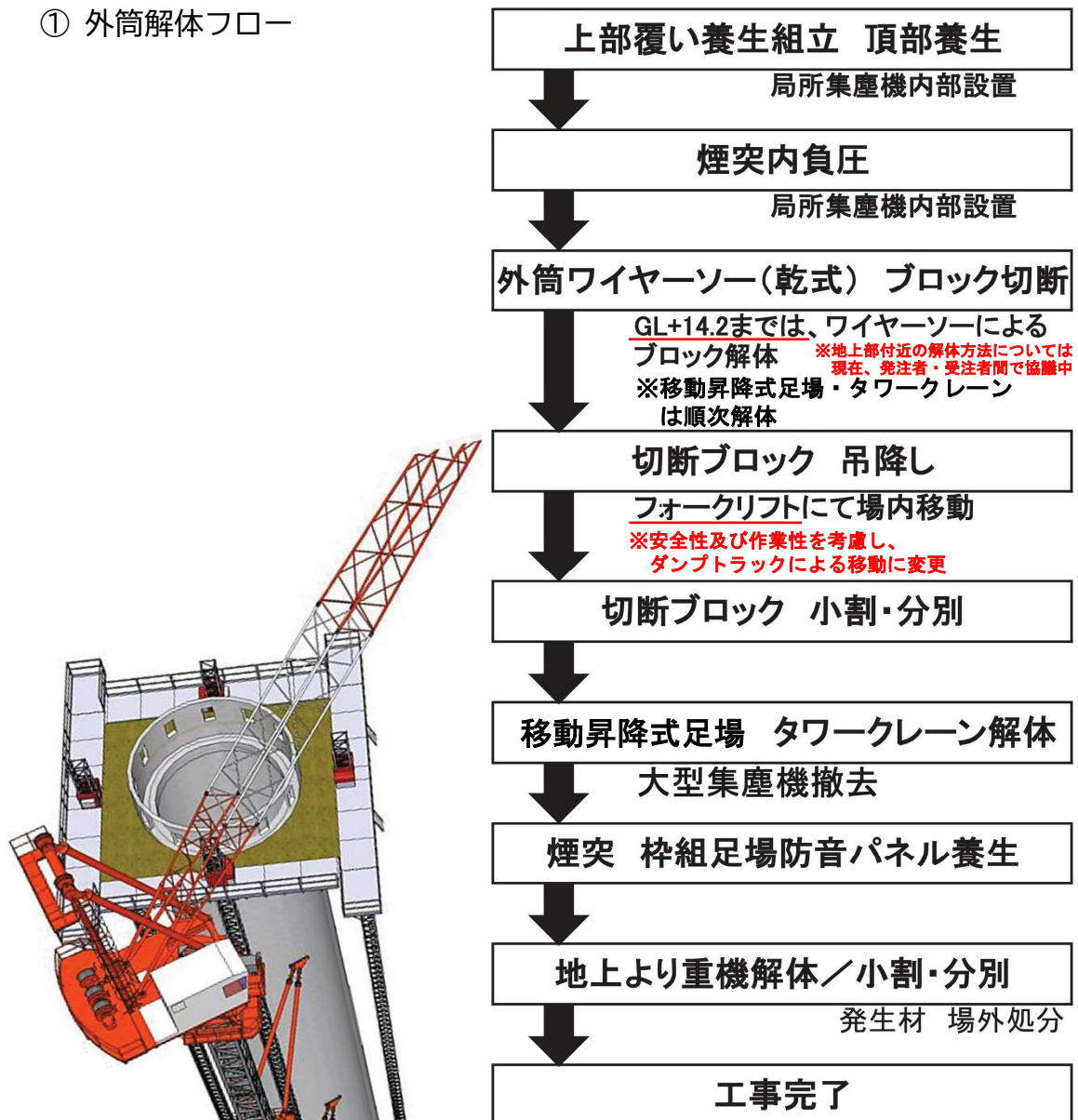


(3) 外筒解体（解体中）

煙突の解体については、令和7年2月から内筒の解体に着手し、その後に移動昇降式足場とタワークレーンを組み立て、螺旋階段等を解体撤去し、現在は外筒の解体を進めております。

外筒の解体は、安全性及び周辺環境に配慮した密閉養生の中での作業とし、騒音、振動の発生を極力抑え、粉じんが飛散しない施工方法としています。

① 外筒解体フロー



② 外筒解体概要

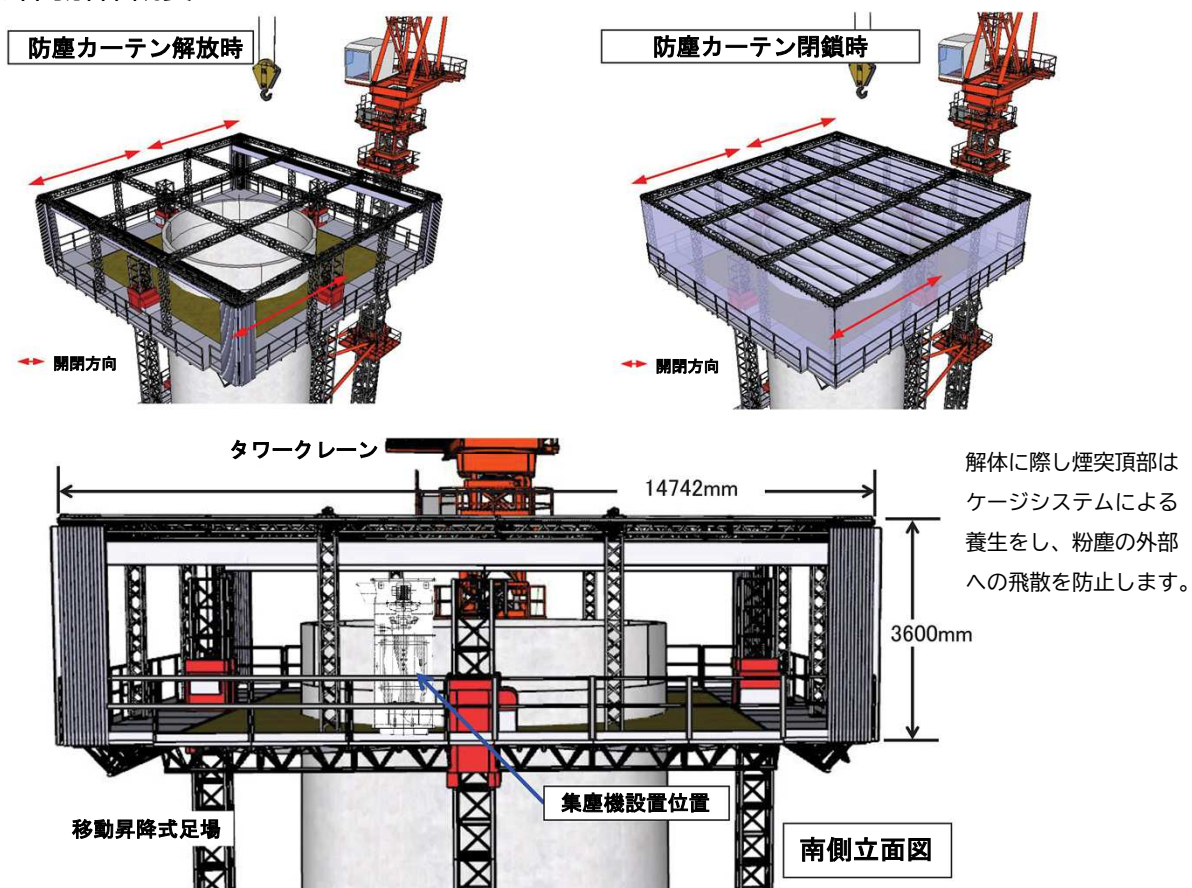


図6-3-1 頂部密閉養生（ケージシステム）組立図

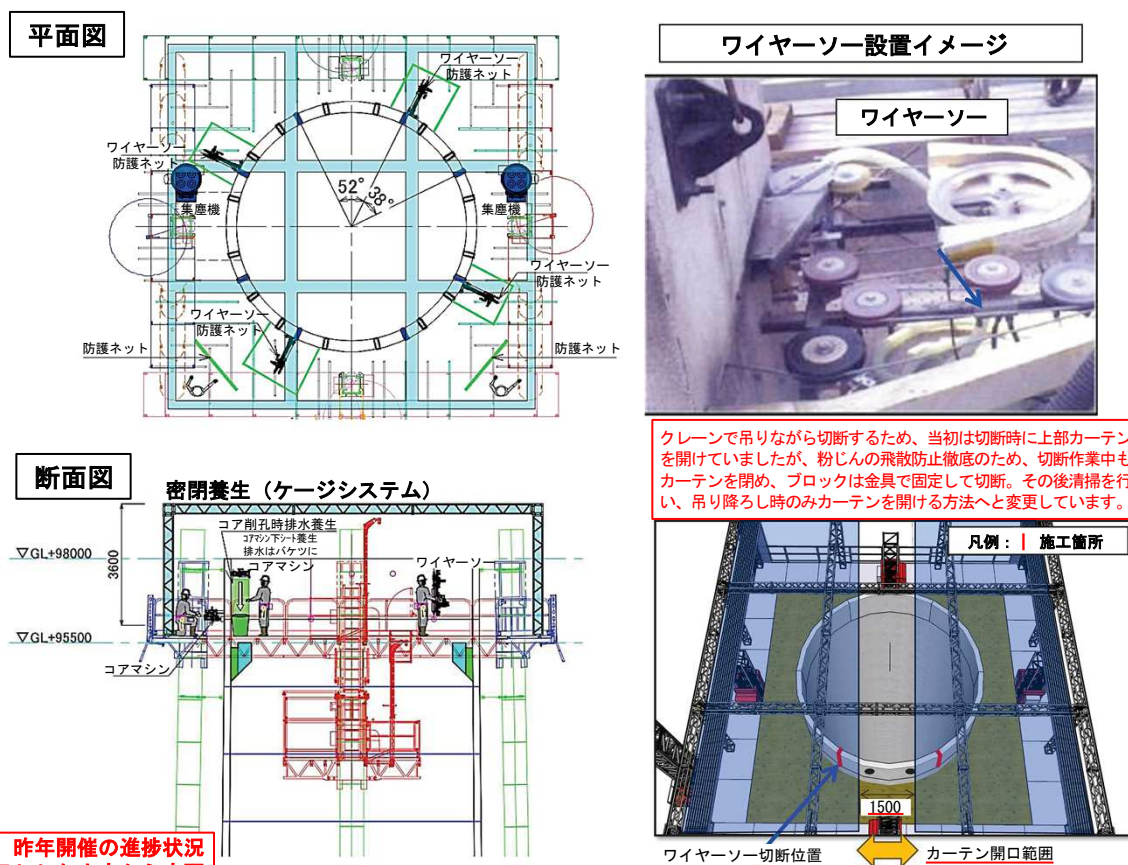


図6-3-2 ワイヤーソーによる切断状況図

② 外筒解体概要

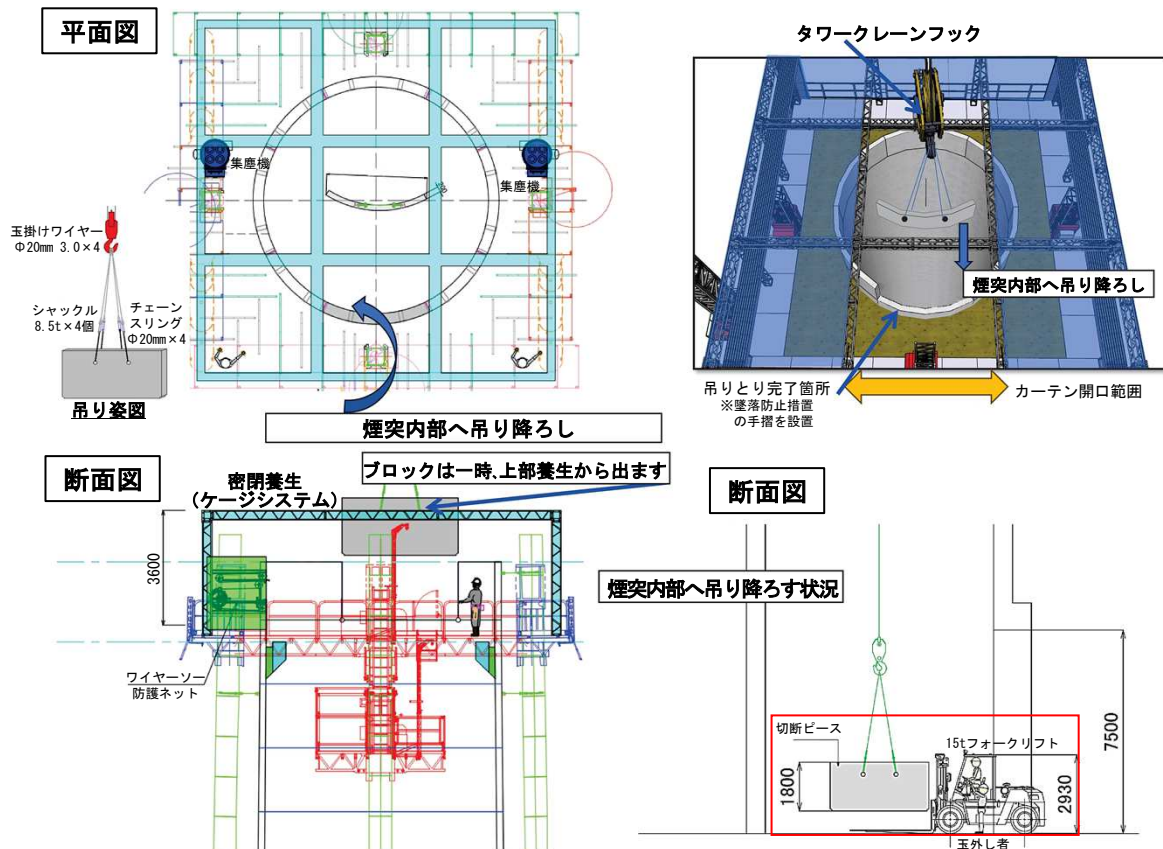


図6-3-3 切断ブロック吊り降ろし状況図

※安全性及び作業性を考慮し、
8 t ダンプによる移動に変更

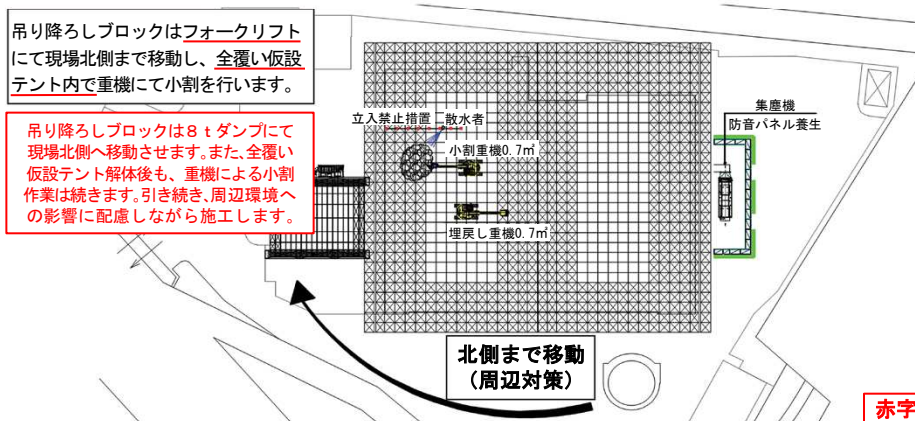
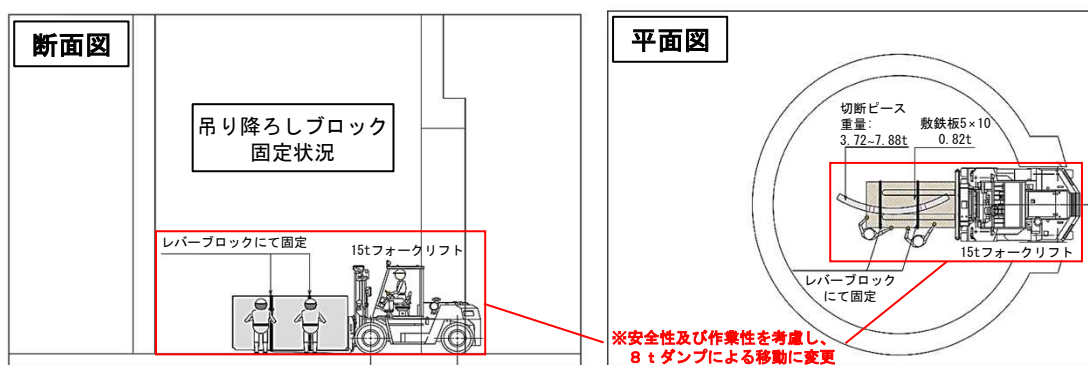
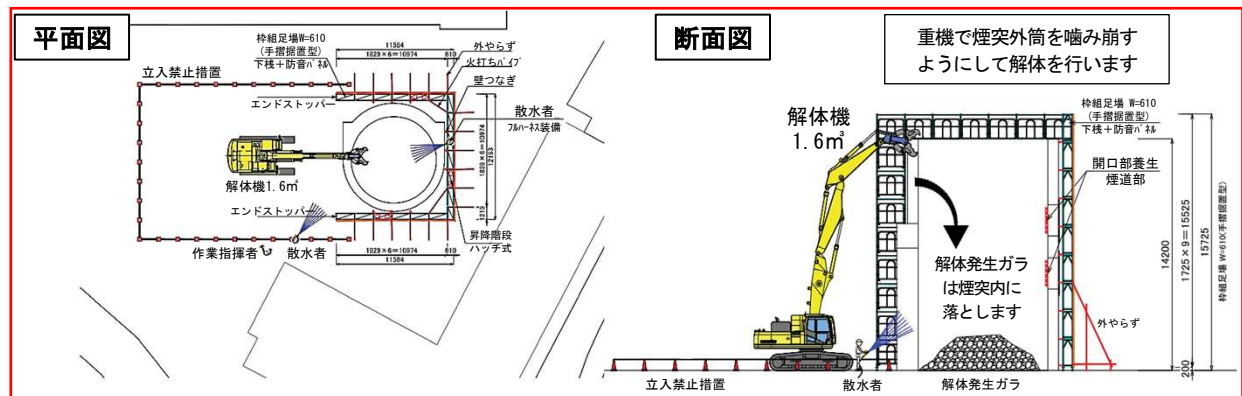


図6-3-4 切断ブロック地上部移動・小割状況図

赤字部分は、昨年開催の進捗状況
報告会でお示した内容から変更
が生じた箇所になります。

② 外筒解体概要



※地上部付近の解体の高さ、養生等については、発注者・受注者間で現在協議中です。

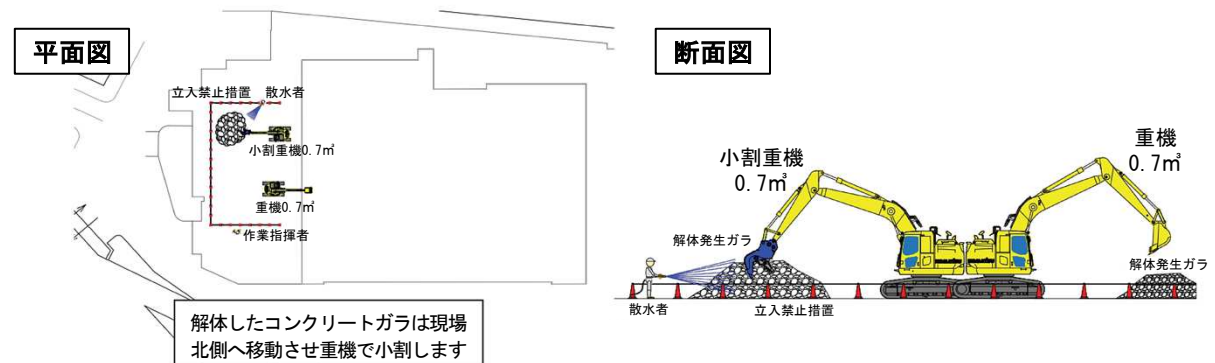
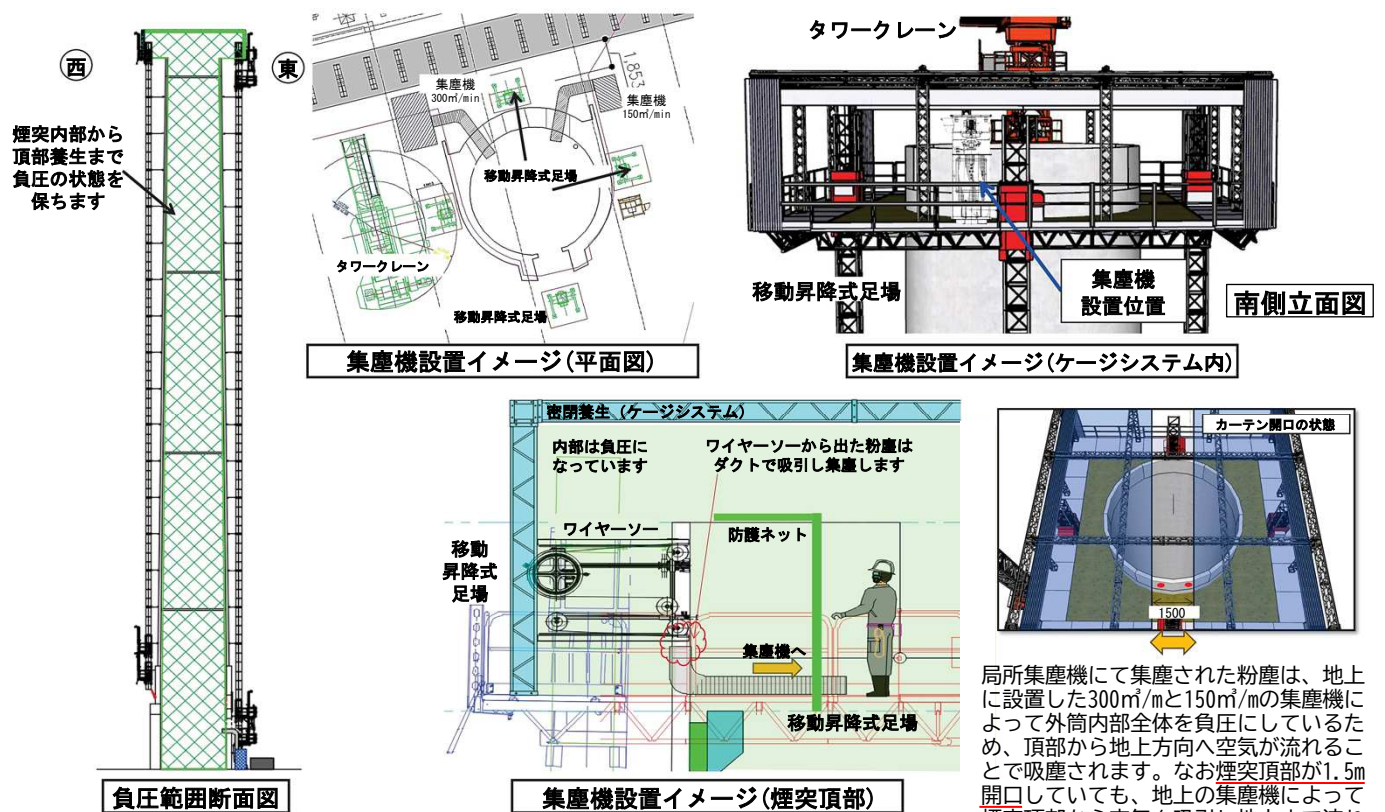


図6-3-5 外筒下部解体・発生ガラ小割状況図



赤字部分は、昨年開催の進捗状況報告会でお示した内容から変更が生じた箇所になります。

局所集塵機にて集塵された粉塵は、地上に設置した300m³/mと150m³/mの集塵機によって外筒内部全体を負圧にしているため、頂部から地上方向へ空気が流れることで吸塵されます。なお**煙突頂部が1.5m開口**していても、地上の集塵機によって煙突頂部から空気を吸引し地上まで流れるため、粉塵は外部には飛散しません。

粉じん飛散防止徹底のため、切断ブロック吊り降ろし時のみ、カーテンを開ける方法へと変更しています

7 山留工事

(1) 山留工事施工計画

工場棟の上屋解体を終え、全覆い仮設テント解体の完了後、防音対策として新たに防音壁を架設し、その後、地下部の躯体解体に伴う山留工事に着手します。

山留工事はアースアンカー工法による施工を計画しています。下の平面図のAからDの東西南北の各箇所における、現時点での施工例を次ページに示します。

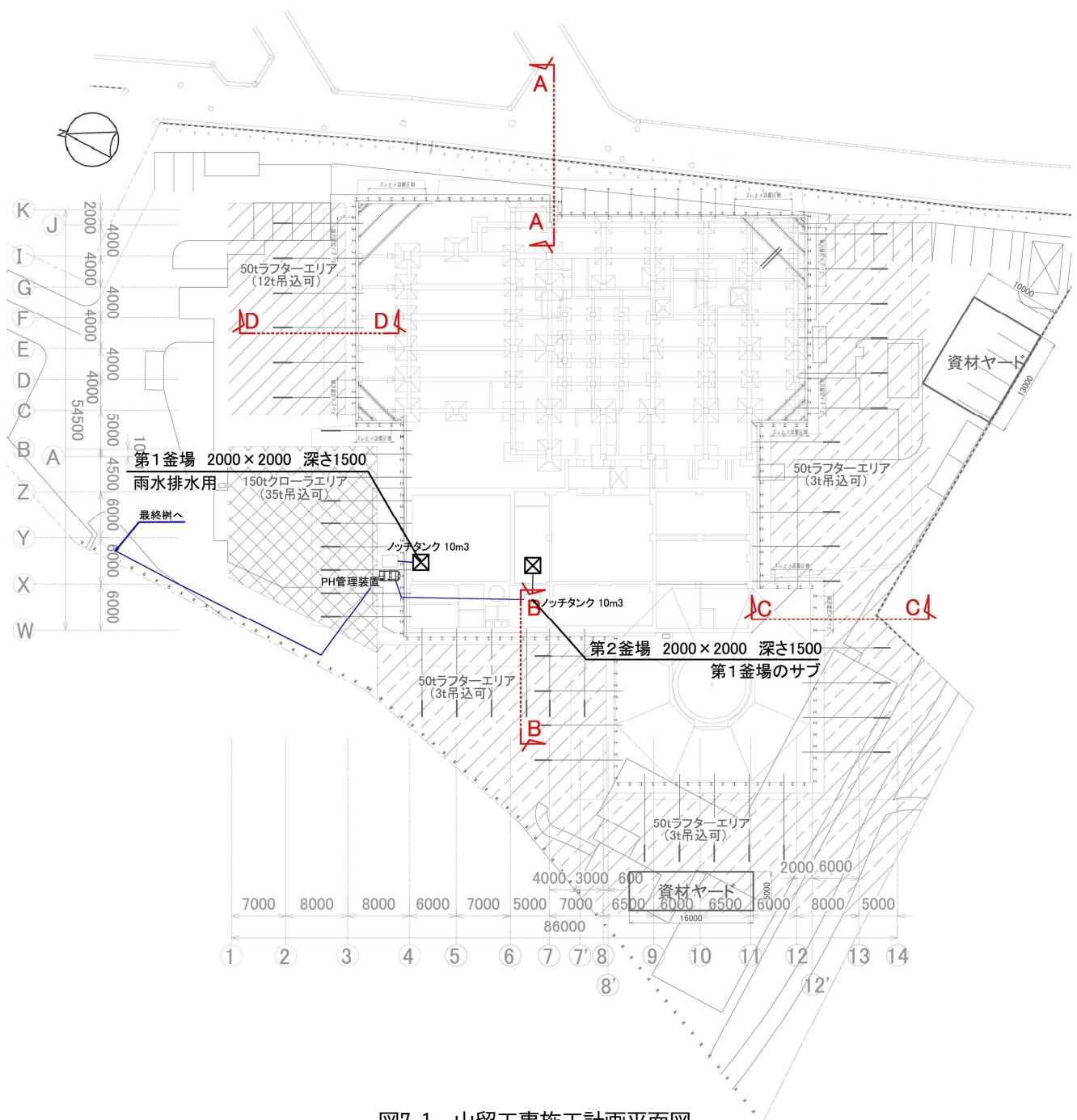


図7-1 山留工事施工計画平面図

（2）山留工事施工例

平面図（前ページ）のAからDの各断面の施工例を下に示します。なお、アンカーの耐荷体は、すべて敷地内におさめます。

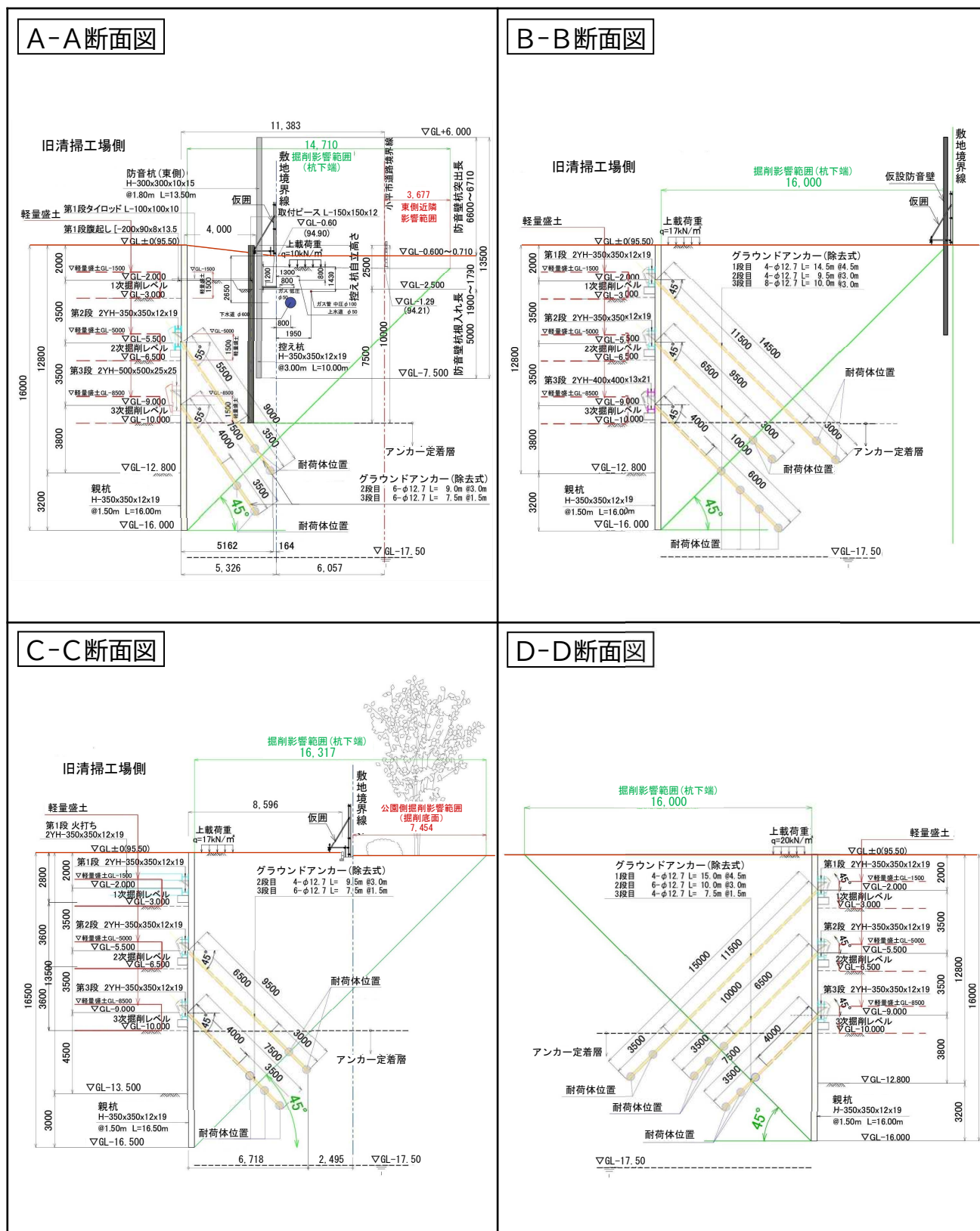


图7-2 山留工事断面图(施工例)

8 地下躯体解体

山留工事に着手した後、工場棟地下部の躯体解体をはじめます。

地上部付近から地下へと解体を進めますが、途中、平成9年の3号炉増設前まで使用していた旧煙突の基礎と、令和4年の稼働停止まで使用していた煙突基礎の解体撤去も行います。現時点で計画している施工の流れを順に図示します。

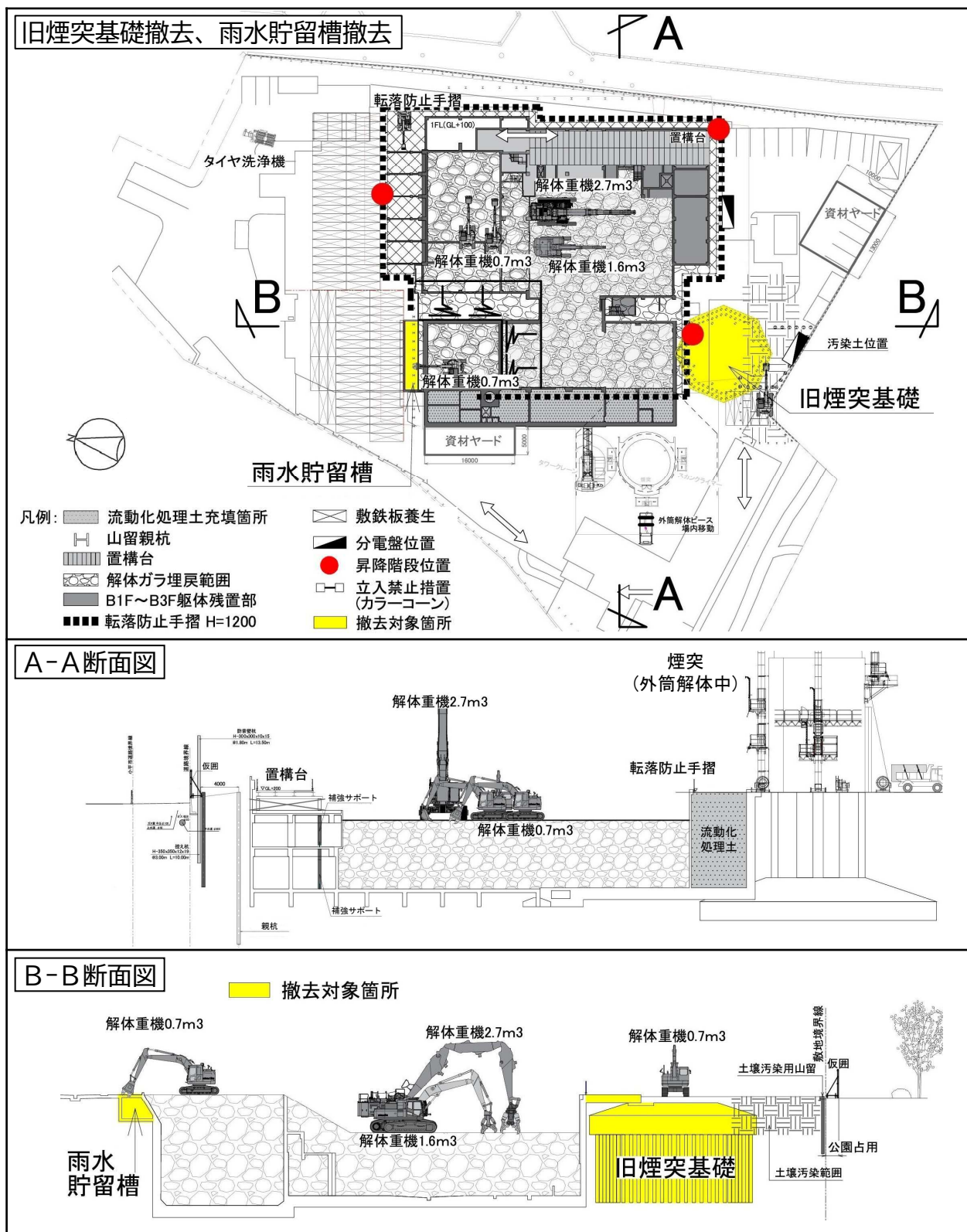


図8-1 地下躯体解体計画図(1)

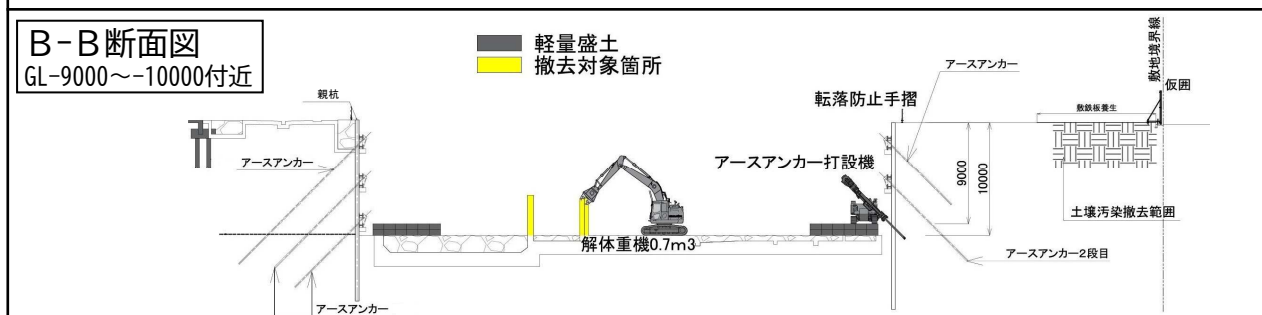
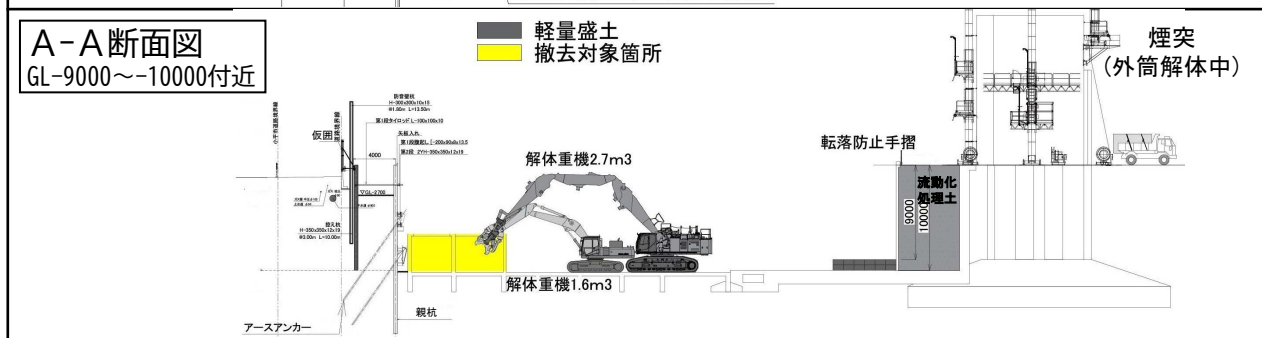
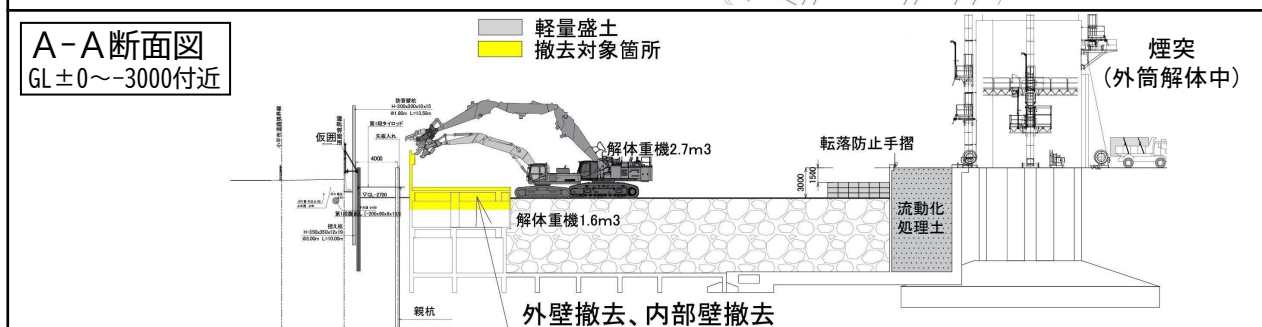
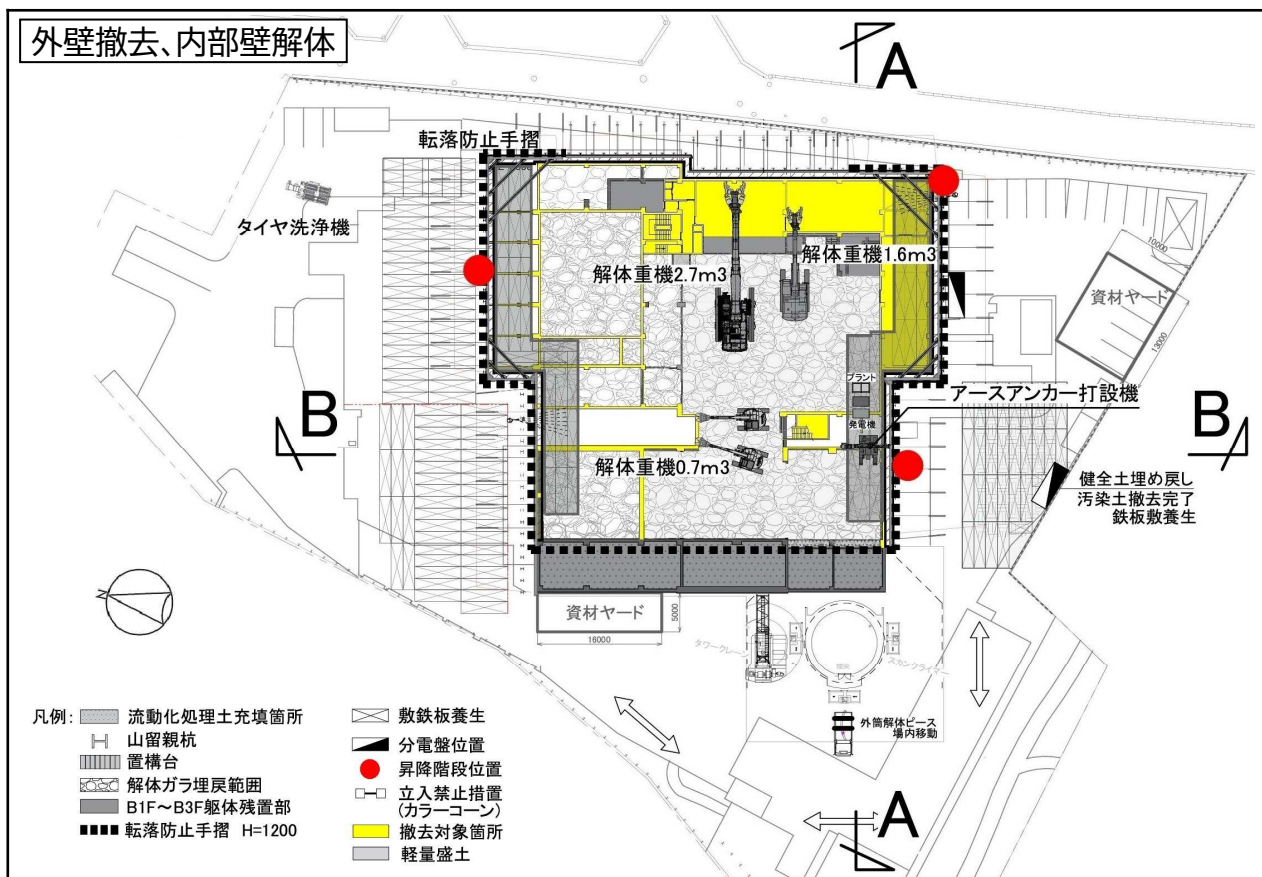


図8-2 地下躯体解体計画図(2)

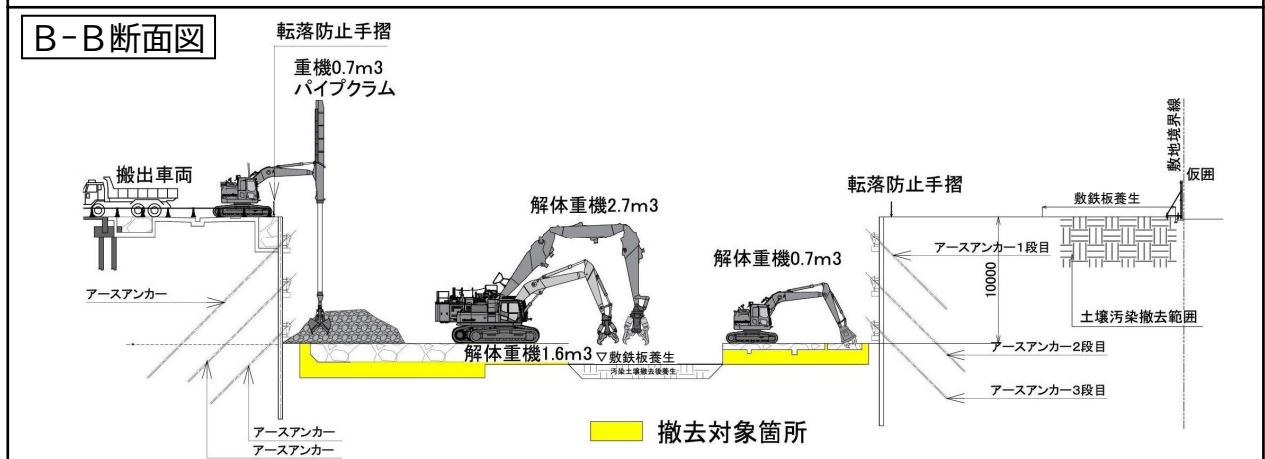
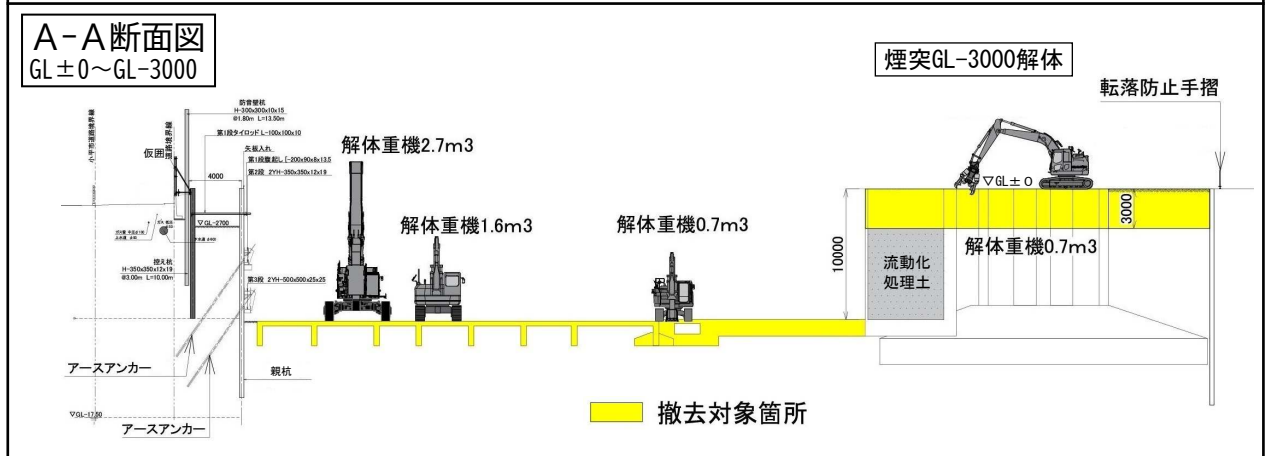
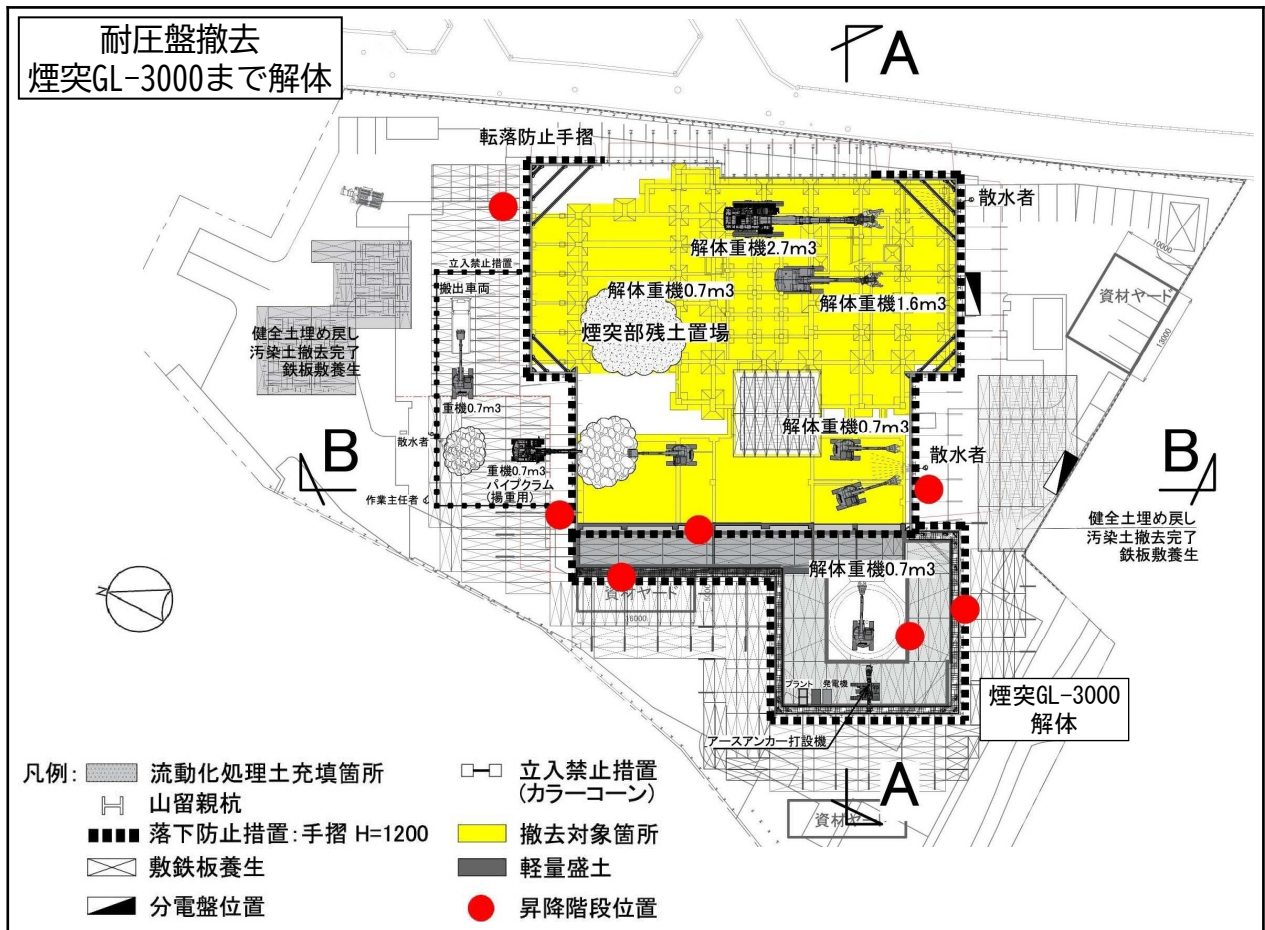


図8-4 地下躯体解体計画図(4)

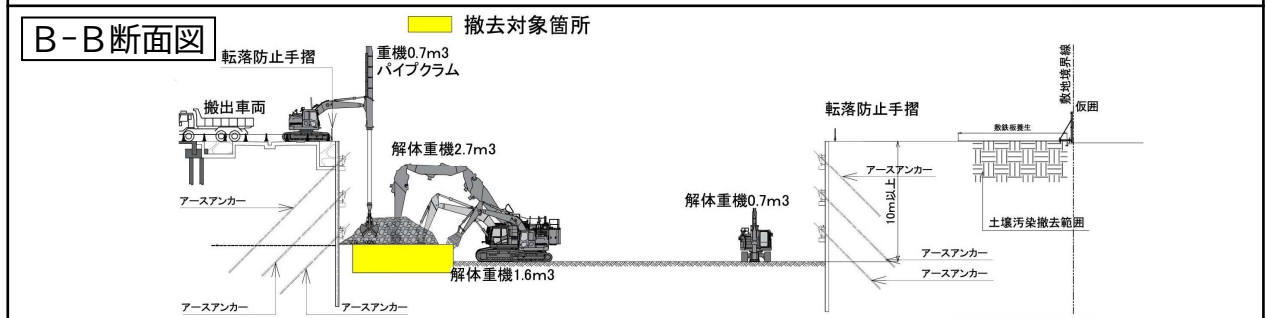
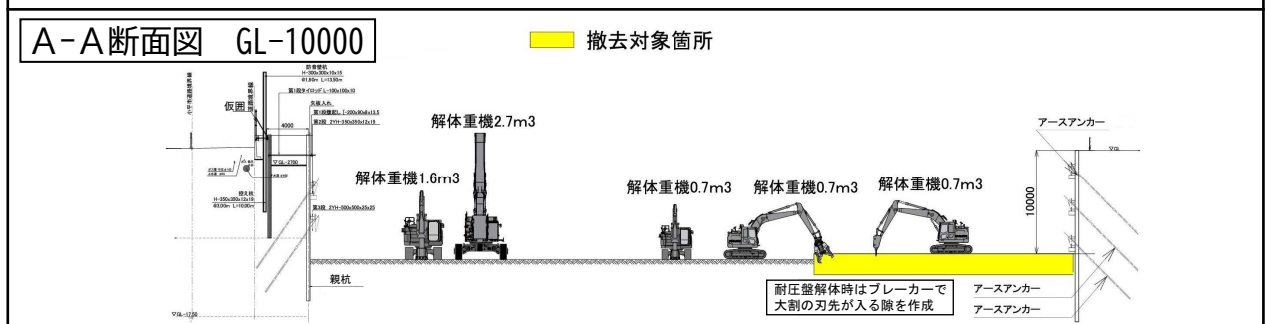
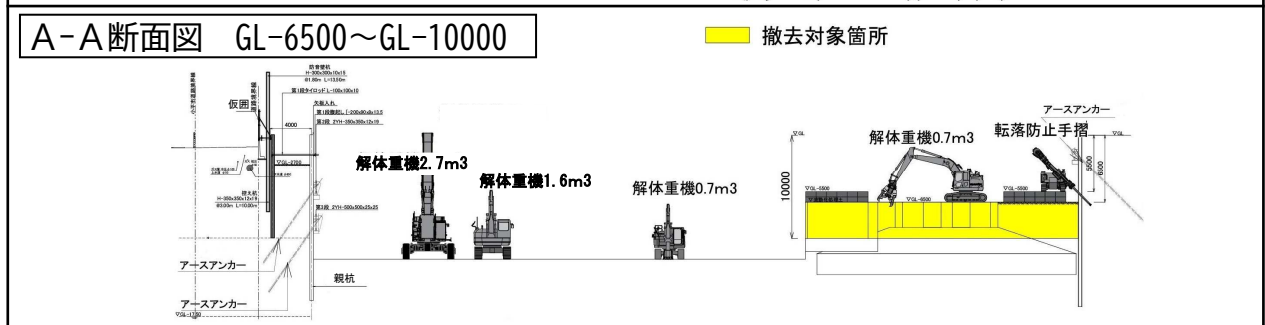
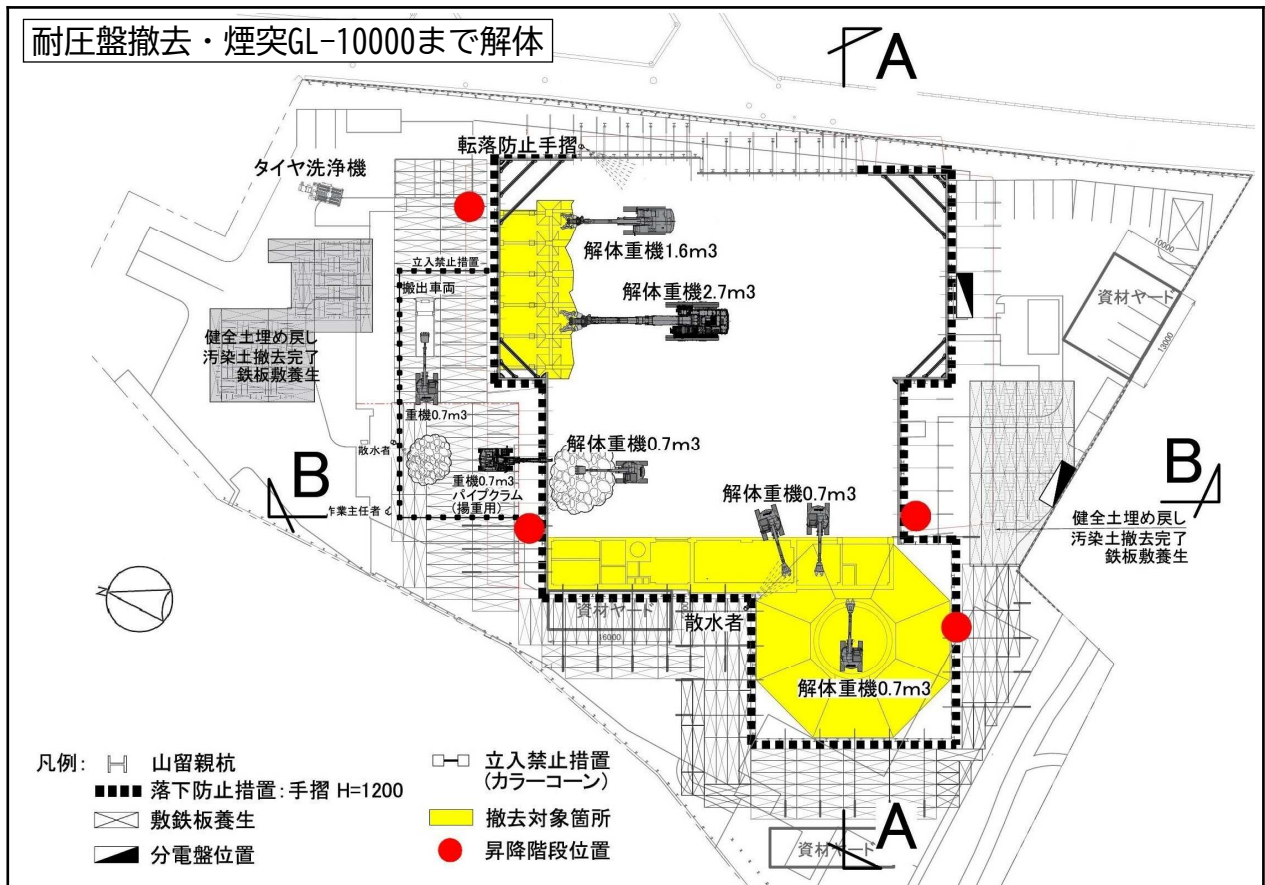
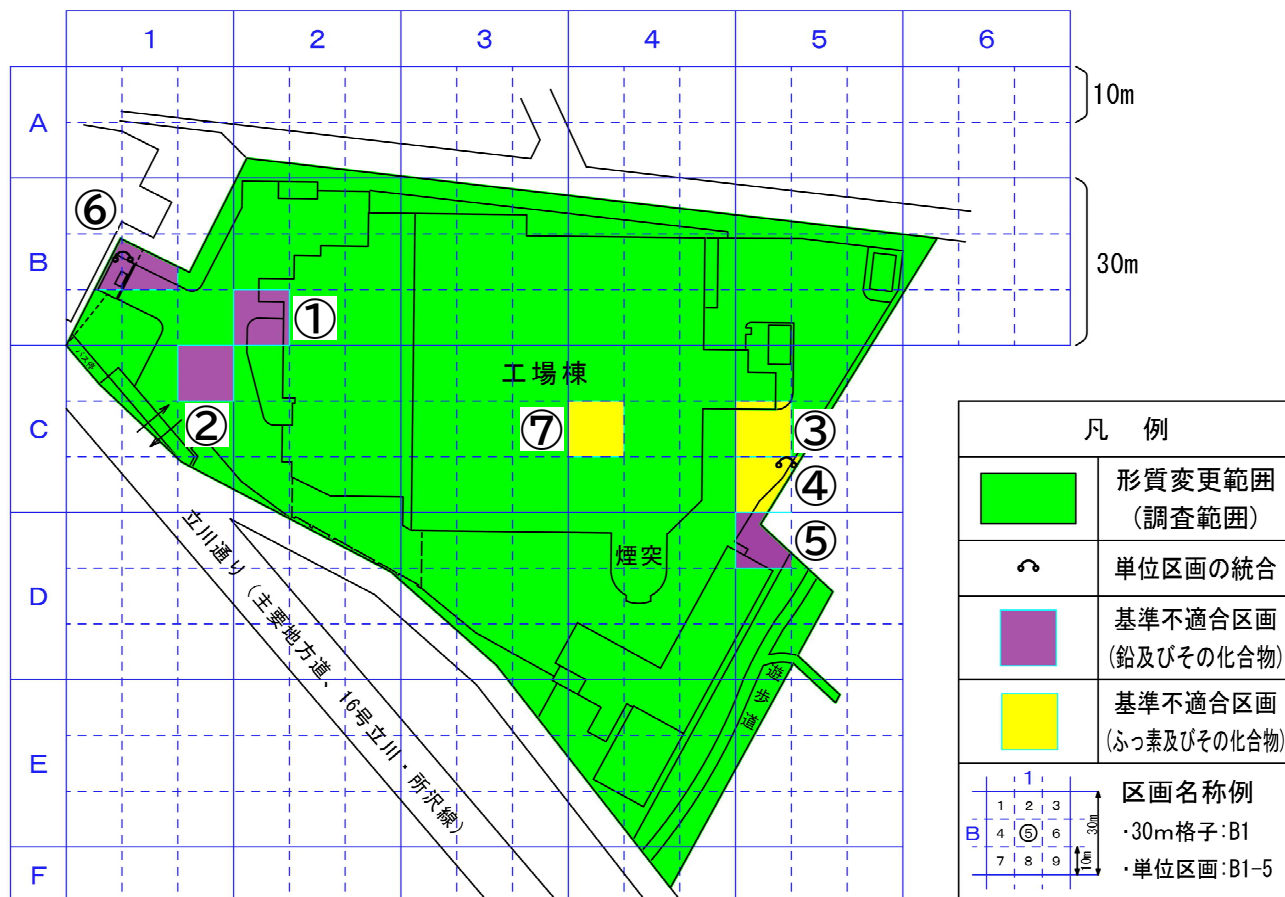


図8-5 地下躯体解体計画図(5)

9 汚染土壌掘削除去

(1) 土壌汚染調査で判明した汚染区画

① 汚染区画面



② 調査結果

土壌汚染物質	基準値		検出値と深度(最大値)
鉛及び その化合物	含有量	150mg/kg	550mg/kg (基準値の約3.7倍) 深度: GL -2.0m
ふっ素及び その化合物	溶出量	0.8mg/l	2.2mg/l (基準値の約2.8倍) 深度: GL -3.0m

※地下水から特定有害物質の基準超過は認められないため、近隣への影響はありません。

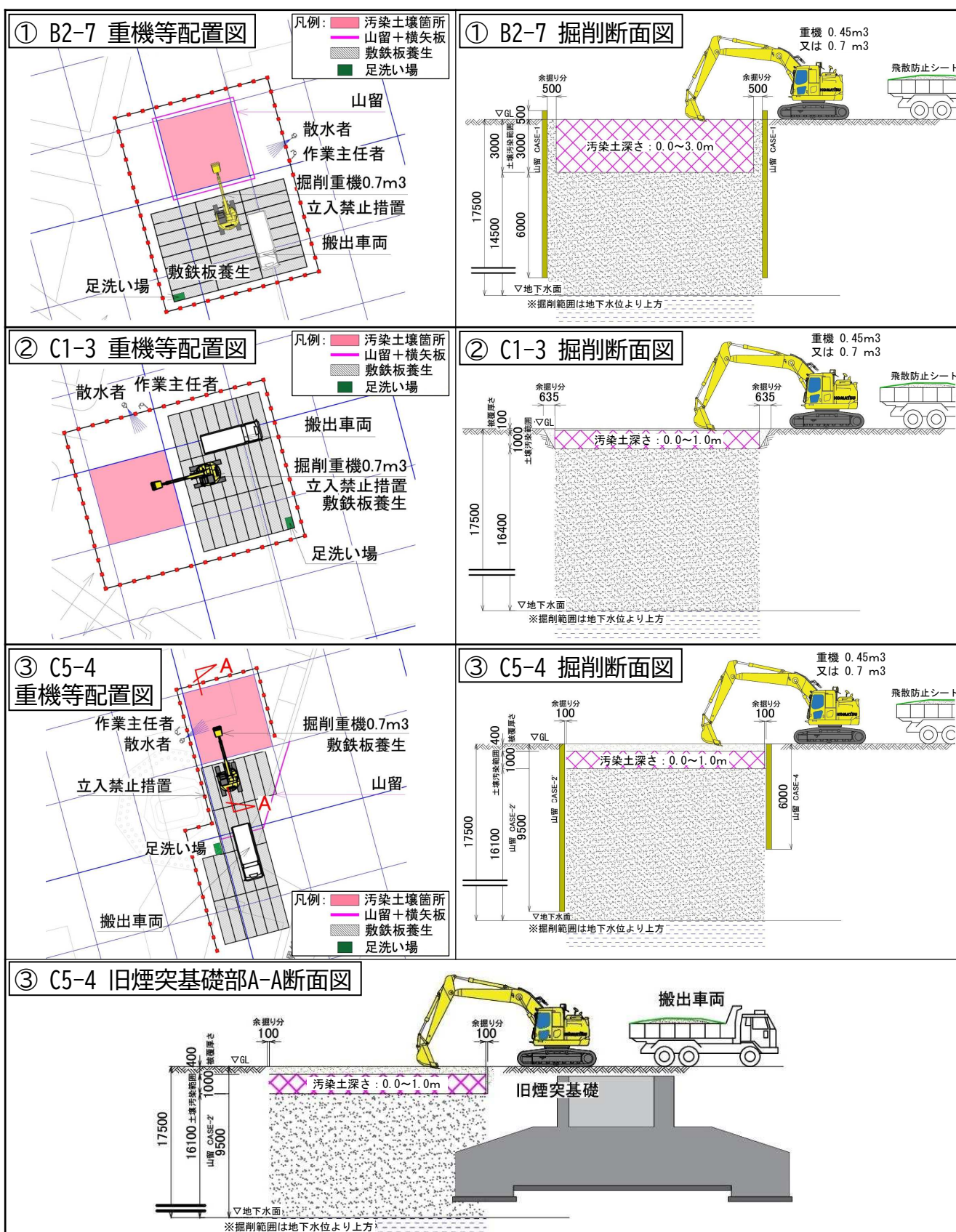
③ 区画の指定と今後の対応

基準超過区画については、東京都多摩環境事務所へ報告を行い、「形質変更時要届出区域」に指定(令和6年11月1日付け及び令和7年4月11日付け東京都官報で告示)されたため、形質変更の届出を行ったうえで掘削除去するものです。

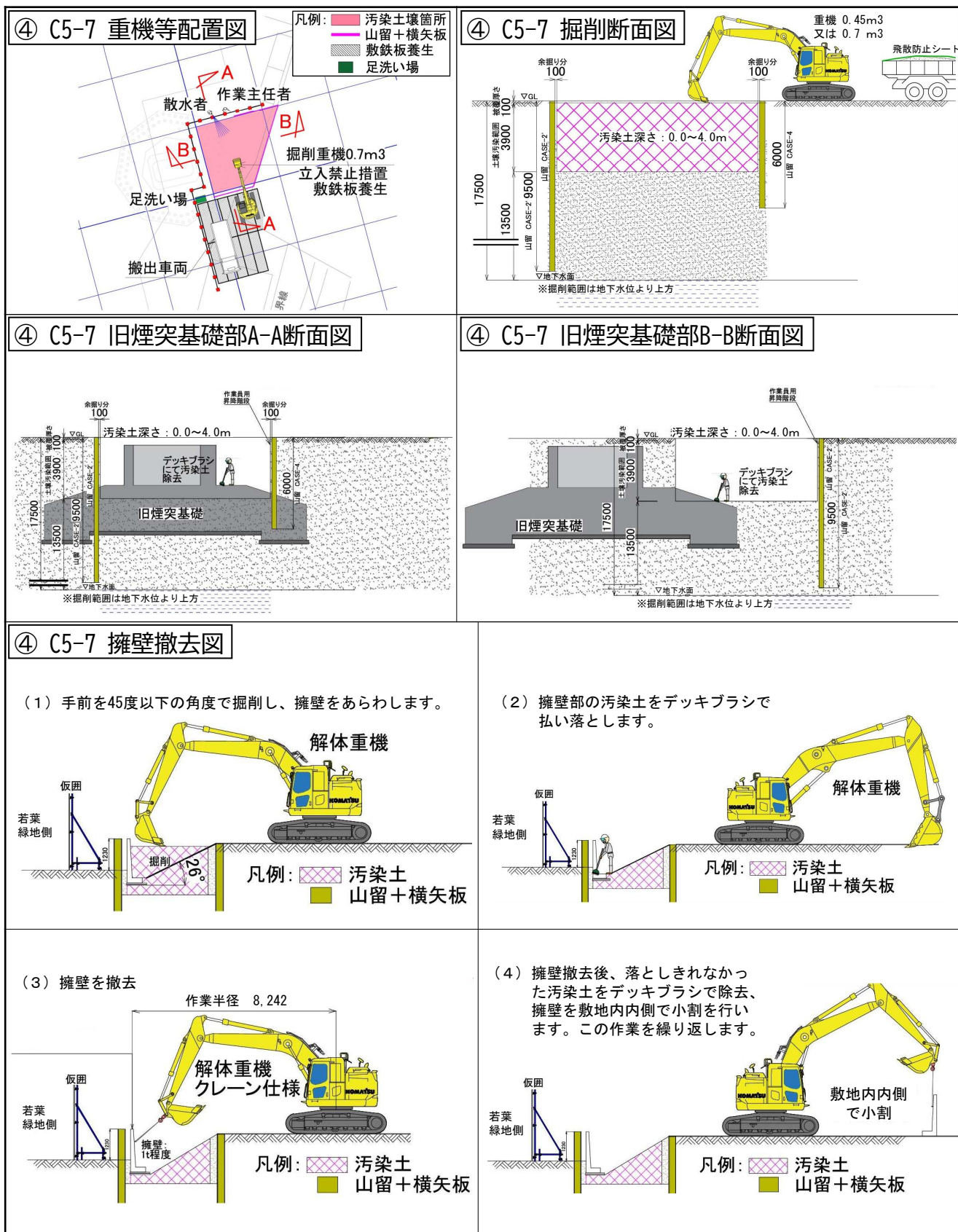
形質変更時要届出区域 (土壌汚染対策法第11条)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染の摂取経路がなく、健康被害が生じるおそれがないため、汚染の除去等の措置が不要な区域 ・土地の形質変更時に都道府県知事に計画の届出が必要(法第12条)
-----------------------------	--

(2) 掘削除去計画

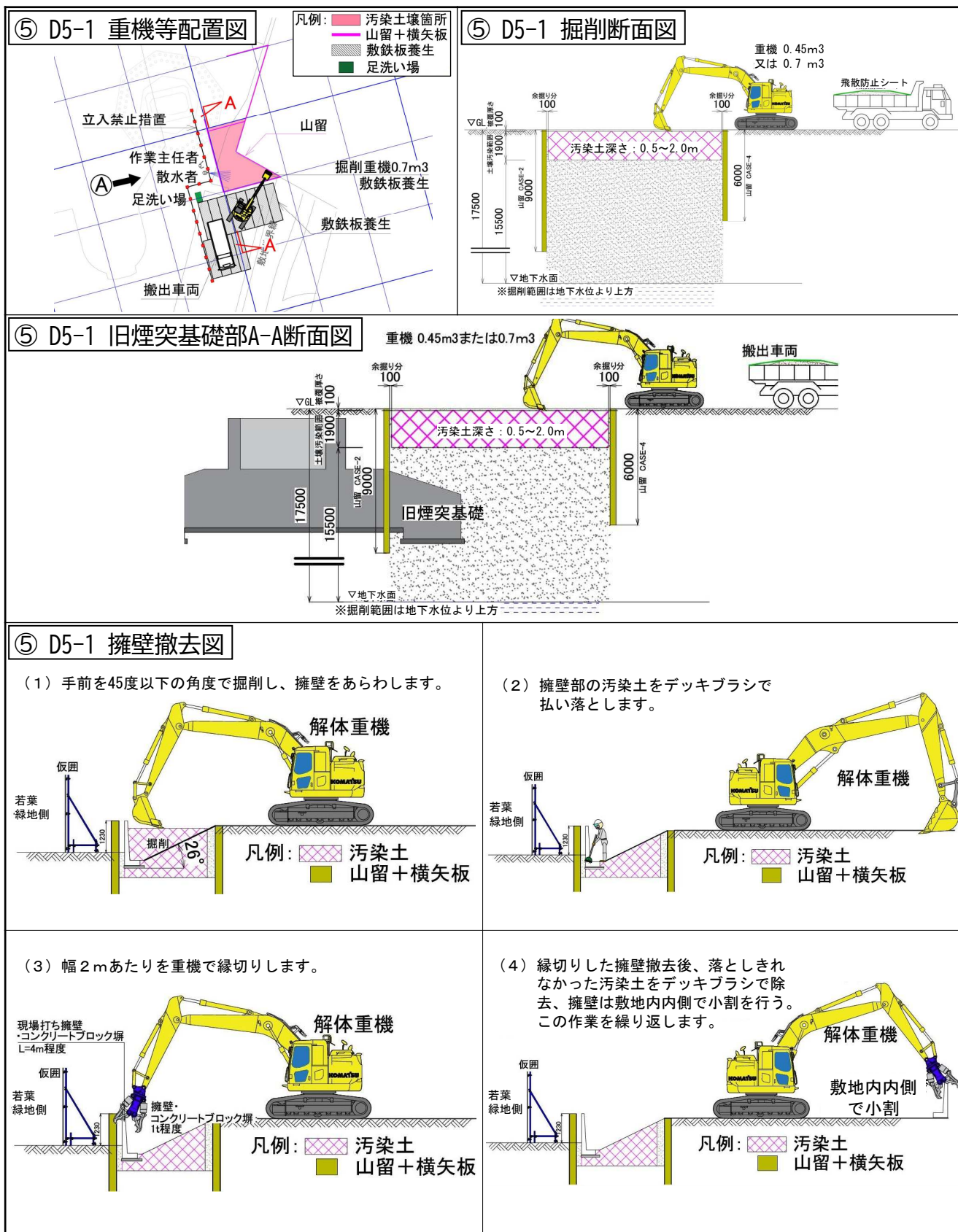
土壌汚染調査によって汚染が確認された7つの区画は、深度調査で確定した量の土を掘削除去します。また敷地境界付近は、各区画の状況に応じた撤去作業を行います。



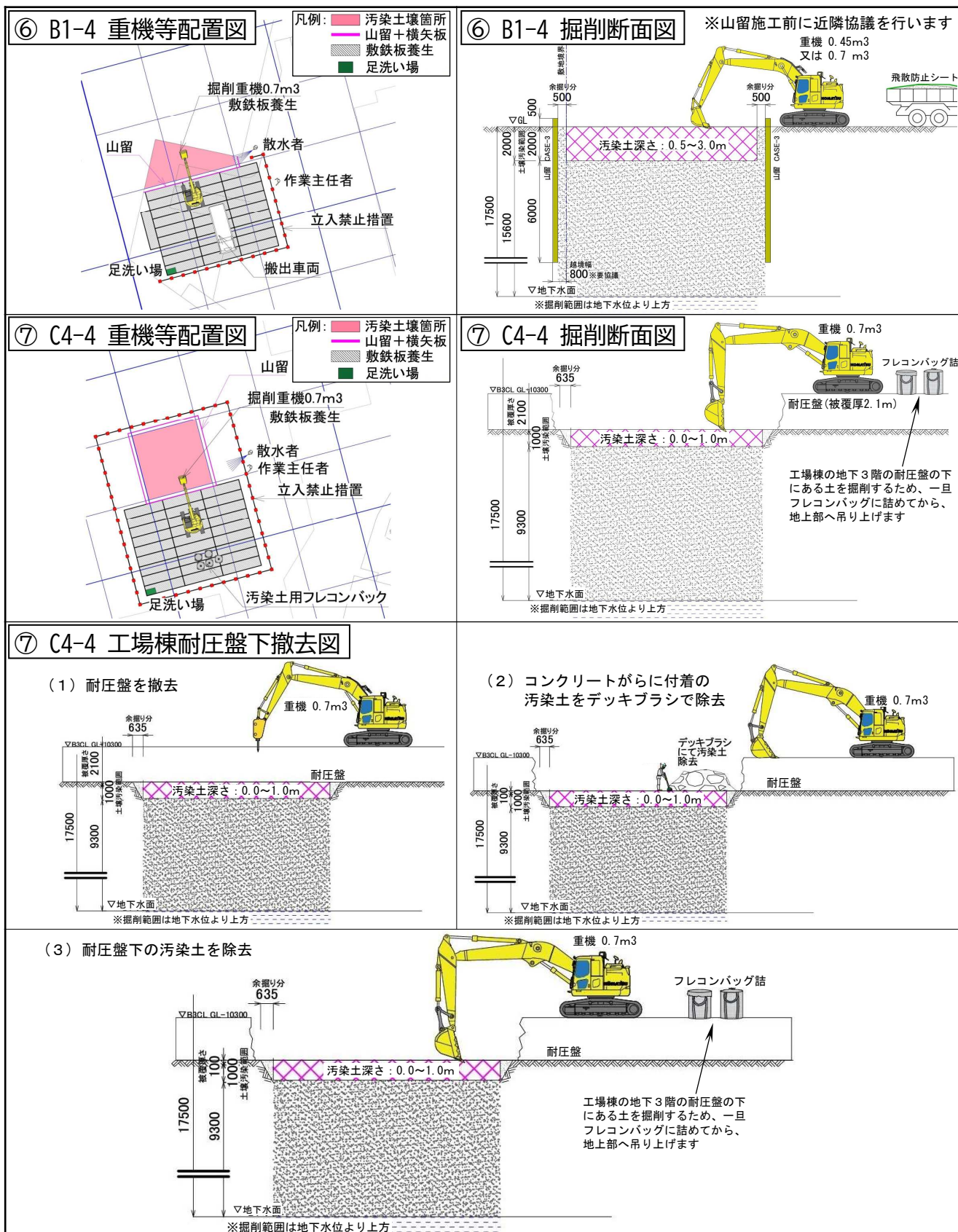
地下水位以深まで山留を設置しても地下水に汚染が拡散することがないように、対象区画の周囲に親杭を打設した後、横矢板を設置します。



重機で掘削した汚染土は、浸透防止シートで荷台を覆ったダンプトラックに積み込み、飛散防止用のシート掛けを行って養生した後、土壌リサイクル施設へ搬出します。



汚染土の掘削が完了した箇所から、順次埋め戻しを行います。山留杭の撤去後は山砂で埋め戻し、水で締め固めます。



10 環境測定結果

(1) 騒音・振動測定結果について

① 測定地点について



図10-1 騒音・振動測定箇所図

② 測定結果について

令和6(2024)年2月から令和7(2025)年12月までの騒音・振動測定結果のデータは、別紙にまとめています。気になる点などがありましたらおたずねください。

(オープンハウスにご参加いただけなかった方も、解体現場の工事事務所で測定結果のデータをご覧くださいませ。)

(2) 騒音・振動対策について

引き続き、騒音規制法、振動規制法及び都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(以下「環境確保条例」という。)に基づく騒音、振動の規制基準を遵守し、周辺環境に十分配慮し施工します。また、本工事で使用する重機類等は、原則として低騒音・低振動対策型・排出ガス対策型を使用します。

表10-1 騒音・振動の規制基準

項 目	騒 音	振 動
基 準 値	85デシベル (特定建設作業)	75デシベル (特定建設作業)

(3) ダイオキシン類測定結果について

① 測定時期

大気調査：施工前、施工中、解体工事完了後

なお、施工中及び施工後における測定は管理区域内(工場棟内部等)より行います。

土壌調査：施工前、解体工事完了後

② 測定方法

ダイオキシン類に係る大気環境調査測定マニュアル（令和4年3月環境省）に基づき測定

ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアル（令和4年3月環境省）に基づき測定

③ 測定箇所及び測定結果（施工前）



図10-2 ダイオキシン類測定箇所図（施工前）

■ 大気調査

(単位：pg-TEQ/m³)

区分	測定日	北	東	西	南
施工前	令和6(2024)年 1月11日	0.0082	0.0091	0.0087	0.0093

※環境省が定める大気中のダイオキシン類の環境基準は0.6pg-TEQ/m³以下です。

■ 土壌調査

(単位：pg-TEQ/g)

区分	測定日	北	東	西	南
施工前	令和6(2024)年 3月1日	0	0	0	0

※環境省が定める土壌中のダイオキシン類の環境基準は1,000pg-TEQ/g以下です。

※敷地内の土壌は施工前後の分析に適さないことが判明したため、標準砂に代え実施。

④ 測定箇所及び測定結果（施工中）

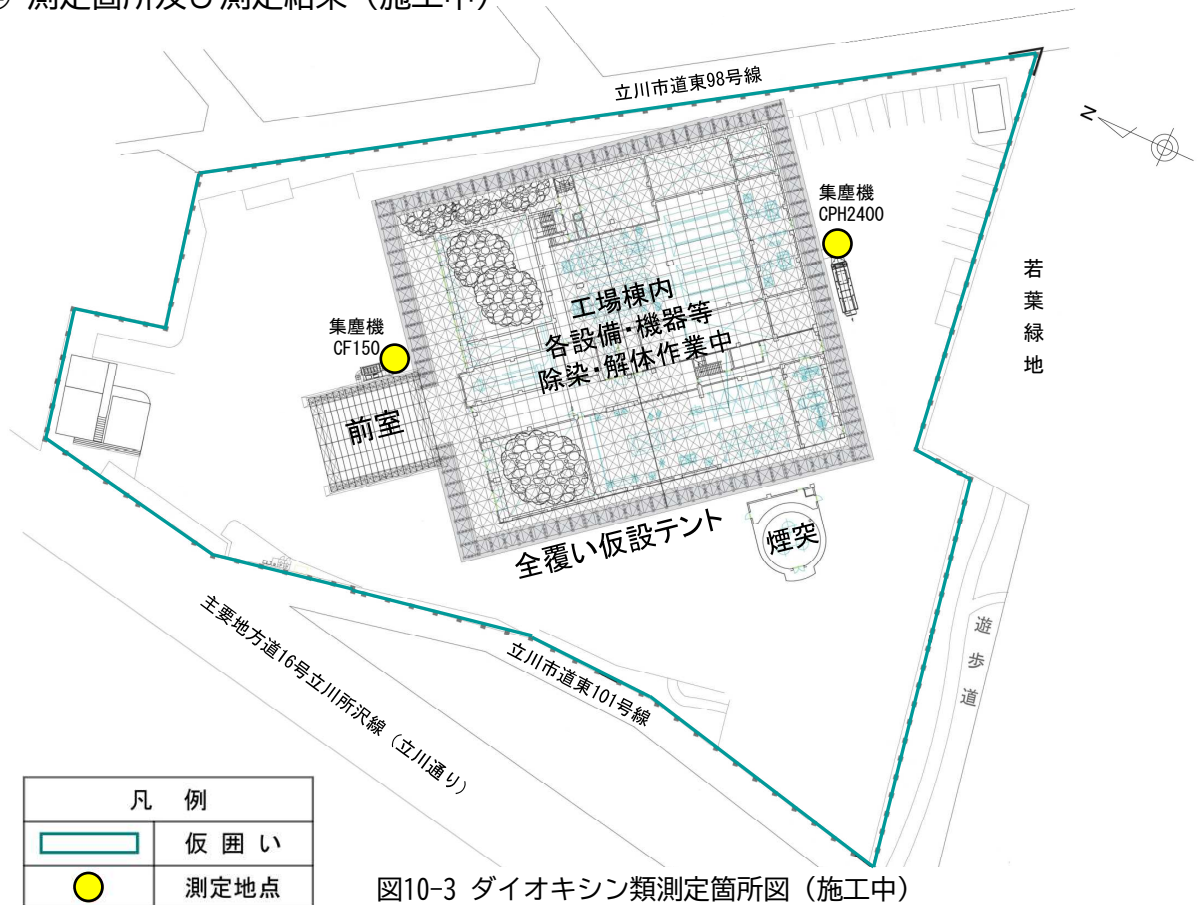


図10-3 ダイオキシン類測定箇所図（施工中）

■ 大気調査

（単位：pg-TEQ/m³）

区分	測定地点	測定日（作業日の午前・午後に一度測定）	作業種別	測定結果
施工中	前室 テント 集塵機 CF150 排気口	3月24日 AM 3月27日 PM 3月31日 PM 4月7日 AM	除染中	0.01
		5月15日 PM 5月20日 PM 5月28日 PM 6月13日 PM 6月25日 AM 8月1日 AM	解体中	
		3月28日 PM 4月1日 AM 5月9日 PM	除染中	0.02
		2月17日 AM ～ 5月12日 PM （上記の13日を除く作業日全日）	除染中	0
		5月13日 AM ～ 11月14日 PM （上記の13日を除く作業日全日）	解体中	
	全覆い 仮設 テント 集塵機 CPH2400 排気口	4月21日 AM	除染中	0.01
		6月16日 PM	解体中	
		5月7日 AM	除染中	0.02
		2月17日 AM ～ 5月12日 PM （上記の3日を除く作業日全日）	除染中	0
		5月13日 AM ～ 11月21日 PM （上記の3日を除く作業日全日）	解体中	

※環境省が定める大気中のダイオキシン類の環境基準は0.6pg-TEQ/m³以下です。

(4) 推定ダイオキシン類算出結果について

① 測定箇所

ダイオキシン類測定箇所（施工前）と同様の北東西南

② 算出方法

廃棄物焼却施設の廃止または解体に伴うダイオキシン類による汚染防止対策要綱（令和3年2月東京都環境局）第10条1項に準拠し算出

③ 算出結果（敷地境界）

各月における各地点の平均値を表記

■ 令和6(2024)年12月2日～令和7(2025)年12月26日 (単位：pg-TEQ/m³)

区 分	測定日	北	東	西	南
工事中	令和6(2024)年 12月	0.017	0.005	0.002	0.004
工事中	令和7(2025)年 1月	0.010	0.003	0.003	0.004
工事中	令和7(2025)年 2月	0.020	0.008	0.009	0.007
工事中	令和7(2025)年 3月	0.004	0.002	0.007	0.003
工事中	令和7(2025)年 4月	0.005	0.007	0.006	0.004
工事中	令和7(2025)年 5月	0.002	0.005	0.005	0.006
工事中	令和7(2025)年 6月	0.004	0.003	0.009	0.002
工事中	令和7(2025)年 7月	0.003	0.003	0.003	0.004
工事中	令和7(2025)年 8月	0.007	0.003	0.005	0.000
工事中	令和7(2025)年 9月	0.007	0.004	0.001	0.002
工事中	令和7(2025)年 10月	0.002	0.002	0.002	0.003
工事中	令和7(2025)年 11月	0.004	0.001	0.006	0.003
工事中	令和7(2025)年 12月	0.005	0.005	0.004	0.004

※東京都環境局が定める敷地境界における推定ダイオキシン類の自主管理基準は0.6pg-TEQ/m³

引き続き、周辺環境に十分配慮し解体工事を進めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本工事に関するご質問やご不明な点などがございましたら、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

(お問い合わせ先)

◆立川市環境資源循環部クリーンセンター

住 所：立川市泉町2002番地（〒190-0015）

電 話：042-523-2111（内線 4014・4015）

ファクシミリ：042-541-5113

Eメール：clean-c@city.tachikawa.lg.jp

◆村本建設株式会社 工事事務所

住 所：立川市若葉町4-11-19（〒190-0001）

電 話：042-537-7601

ファクシミリ：042-537-7651

携 帯：090-9422-6345

◆受付：月～金曜（祝日を除く）

8:30～12:00、13:00～17:00

